

# 平成27年度 校内研修（研究）の充実に関するグループ 活動報告

## 1 委員・役割分担

	校内研修班	保健体育班
グループ主任（校長） グループ副主任（校長）	堀江 充（風連中央小） 村上比呂人（風連下多寄小）	和田 明典（名寄中） 三浦 礼子（名寄西小）
研究主任（教頭） 研究副主任（教頭）	野宮 勉（豊西小） 森田 繁（智恵文中） 里村 徹（名寄小）	菅藤 正伸（風連中） 本間 修司（中名寄小）
研究員（教諭）	林 琢磨（名寄小） 大沼 房子（名寄南小） 折田 恵（名寄東小） 香川 寛明（豊西小） 早川 裕章（風連中） 山下 真悟（名寄中）	手塚 佳（名寄小） 河田紗生子（名寄西小） 見田由美子（風連中央小） 辻 典男（名寄東中） 安達 義徳（智恵文中）

## 2 研究内容

- (1) 校内研修（研究）の充実に関すること
- (2) 計画研修等の充実に関すること
- (3) 教育関係機関との連携に関すること

## 3 研究内容の具体化・具体的取組

〈市内各校の取組を・①【ひろげる】・②【ふかめる】・③【つなげる】〉

平成27年度の重点 研修成果をミドルリーダーや一般の会員に広げ、資質の向上を図る。

- (1) 「校内研修」班 ～「校内研修」を軸とした資質向上の取組
  - ① 過年度作成資料の活用・校内研修の情報交流等、資質向上の取組推進 ① ② ③  
 日常の授業改善に直結する校内研修（研究）の在り方に関する研修  
 （主題設定の方法、年次計画の作り方、有意義な校内研修のもち方 等）
  - ア ミドルリーダーによる出前ミニ講座＝兼ミドルリーダーの育成研修
  - イ 学校力等に関わる各学校の情報交換
  - ウ 学校力向上に関わる総合実践事業指定校等先進地視察
  - ② 「学校力向上総合事業」の活用 ① ②  
 （学校力向上アドバイザーによる講演会の周知・集約・運営、研修機会の紹介 等）
  - ③ 「初任者研修」等の効果的なもち方と活用 ②  
 （各学校担当者の情報交流、指導への活用、一般教職員向け研修への活用 等）
  - ④ 「道徳」の研修推進 ②
- (2) 「保健体育」班～
  - ① 運動能力の調査等の結果の分析・課題解決に向けた効果的な指導に関する研究推進
    - a 体育の効果的な指導方法に関する実技研修の実施（5月）① ②
    - b 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」と新体力テストの実施（7月）① ②
    - c 自校の結果分析及び改善策の構築の取りまとめ ② ③
    - d 日常の授業改善に直結した研修会の実施 ① ②

## 4 今年度の活動経過・活動予定

月 日	研究 内 容	備 考
4月28日(火)	第1回学校改善プロジェクト委員会 第1回グループ会議 ・平成27年度研究内容の検討 ・平成27年度具体的取組の検討 ・役割分担検討	
5月22日(金)	第2回学校改善プロジェクト委員会 第2回グループ会議 ・平成27年度研究内容の確認 ・平成27年度具体的取組の確認 ・役割分担の確認 ・各班進捗状況及び今後についての確認	16名参加

5月28日(木)	○「新体カテスト」実技研修会（風連中学校）	16名参加
6月	校内研修班 ・ミドルリーダー原稿作成 ・派遣日程調整 ・ミドルリーダー研修日程調整	
7月 6日(月)	○ミドルリーダー研修Ⅰ（名寄小学校） ・出前ミニ講座派遣日程、派遣者決定 ○第3回グループ会議（名寄小学校） ・今後の取組内容、日程確認	19名参加
7月21日(火)	○出前ミニ講座（智恵文中学校）開始 9月1日（火）まで11校を対象に10回実施	10回実施
7月24日(金)	○平成27年度新体カテスト集計開始	
7月27日(水)	○ミドルリーダー研修Ⅱ 「実践指定校の取組（名寄小学校）」	13名参加
7月30日(木)	○学校力向上アンケート依頼	
8月20日(木)	○平成27年度新体カテスト集計結果送付 ○学校力向上アンケート結果の送付 ○学校力向上に向けた取組資料送付依頼	
8月26日(水)	○視察研修事前研修会（名寄市民文化センター） ・市内各校で実践している効果のある取組についての交流 ・視察する学校の特徴等	13名参加
9月25日(金)	○留萌市立留萌小学校視察研修	8名参加
10月 8日(木)	○石狩市立双葉小学校、北広島市立双葉小学校視察研修	台風により中止 9名参加予定
11月17日(火)	○体育指導の授業実技研修会（名寄小学校）	38名参加
12月14日(月)	第3回教育改善プロジェクト委員会 ・各研究グループの研究活動の成果と課題 ・教育研究集会の発表と協議内容	
12月22日(火)	○実践指定校等視察研修報告会（市役所）	40名参加
1月26日(火)	名寄市教育研究集会 平成27年度の研究成果などの発表・協議、交流	
2月 9日(火)	第4回教育改善プロジェクト委員会 平成28年度の研究計画について検討・修正	

## 5 各班の取組

### (1) 校内研修班

① ミドルリーダーによる出前ミニ講座＝兼ミドルリーダーの育成研修【資料1】【資料2】

- |          |  |               |
|----------|--|---------------|
| 7月 6日(月) | ○ミドルリーダー研修Ⅰ（名寄小学校）   | } ミドルリーダー育成研修 |
|          | ・学校力<br>・校内研修  |               |
| 7月27日(水) | ○ミドルリーダー研修Ⅱ（名寄小学校）<br>・実践指定校（名寄小学校）の取組                             |               |
| 7月21日(火) | ○出前ミニ講座開始<br>・9月1日（火）まで11校を対象に10回実施<br>・対象者は初任5年以下及び今年度名寄市に転入した教職員 |               |

### 【出前ミニ講座受講アンケート結果】

(4 よくできた、3 ある程度できた、2 少しできた、1 できない)

	No.	アンケート項目	4	3	2	1
学校力	1	学校力向上と校内研修の関わりについて理解できた	54.3%	42.3%	3.4%	0.0%
	2	互いに学び合い、高め合う校内研修にするための要点について理解できた	54.3%	42.3%	3.4%	0.0%

	3	これからの校内研修に求められることについて理解できた	52.5%	44.0%	3.5%	0.0%
	4	学校力を向上させる目的や意義について理解できた	68.5%	30.5%	1.0%	0.0%
校内研修	1	校内研修の手順について理解できた	54.3%	42.3%	3.4%	0.0%
	2	授業研究の進め方について理解できた	54.3%	42.3%	3.4%	0.0%
	3	研究の検証方法について理解できた	52.5%	44.0%	3.5%	0.0%

② 学校力等に関わる各学校の情報交換について【資料3】【資料4】

- 7月30日（木）○学校力向上アンケート依頼
- ・学校力に関する総合実践事業における26項目
  - ・近隣実践校は、自校で選択した4視点の2項目の合計8項目
  - ・近隣実践指定校以外は、重点的に取り組んでいる事例
- 8月20日（木）○学校力向上アンケート結果の送付  
○学校力向上に向けた取組資料送付依頼
- 8月26日（水）○視察研修事前研修会（名寄市民文化センター）
- ・市内各校で実践している効果のある取組についての交流

③ 学校力向上に関わる総合実践事業指定校等先進地視察【資料5】【資料6】

- 従来の仮説検証型の研究から、授業に直結した研修を主体に教師自身の学びを高め、日々の授業に直結させる研修のあり方等について学び、自校の研修等に反映させることねらいとする。対象は昨年度不参加の研修担当教員（もしくは教務担当教員）、希望する教員
- 8月26日（水）○視察研修事前研修会（名寄市民文化センター）
- ・市内各校で実践している効果のある取組についての交流
  - ・視察する学校の特徴等
- 9月25日（金）○留萌市立留萌小学校視察研修
- 10月8日（木）○石狩市立双葉小学校、北広島市立双葉小学校視察研修（中止）  
台風により中止
- 12月22日（火）○実践指定校等視察研修報告会（市役所）

(2) 保健体育班

① 「新体力テスト」実技研修会の実施【資料7】

- 5月28日（木）○「新体力テスト」実技研修会（風連中学校）  
講師 名寄中学校 須藤 雅典 教諭

② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」と新体力テストの実施状況の取りまとめ

- 7月24日（金）○平成27年度新体力テスト集計開始  
8月20日（木）○平成27年度新体力テスト集計結果送付

③ 体育指導の授業実技研修会の実施【資料8】

- 小学校教員を対象に、体育指導上の困り感の解消を図るために、日常の授業改善に直結した研修会を実施する
- 11月17日（火）○体育指導の授業実技研修会（名寄小学校）  
講師 名寄中学校 須藤 雅典 教諭  
名寄東中学校 辻 典男 教諭

6 今年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 校内研修班、保健体育班とも計画していた取組について、概ね計画通り実施することができた。
- ② 校内研修班では、ミドルリーダー育成研修を2回に渡り実施するなど、学校力に関する理解を深めるとともに、ミドルリーダーの育成が図られた。
- ③ 保健体育班では、各校の新体力テストの実施前の5月に「新体力テスト」実技研修会を、また11月にニーズの高かった小学校の体育指導の授業実技研修会を開催し、各学校の児童・生徒の新体力テストの実施、日常の体育授業の指導に生かすことができた。

(2) 課題

- ① 今年度、アンケートや各校の学校力向上の取組をもとに交流を図った。次年度は交流する内容や方法も含め、一層の充実を図る。
- ② 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」と新体力テストの分析を充実させ、次年度は課題解決に向け、より効果的な指導についての研究を進める。

7 次年度の方角性

# 【資料 1】 ミドルリーダー研修

校内研修（研究）の充実に関する研究グループでは、昨年度に引き続き、日常の授業改善に直結する校内研修（研究）の在り方に関する研修として、グループの研究員が講師として市内の小中学校に放課後出向き、出前ミニ講座を実施しました。

研究員自身が学校力や研修の重要性について理解を深めること、それぞれの所員が各学校で説明することを通して、ミドルリーダとしての資質能力の向上を図ることを目的に2度のミドルリーダー研修を実施しました。

## ミドルリーダー研修Ⅰ 平成27年7月 6日（月） 会場 名寄小学校 19名参加

名寄小学校の里村教頭から、「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校である名寄小学校の取組について写真などを活用し、具体的に紹介、学校力向上の取組の概要について理解を深めました。

次に、智恵文中学校の森田教頭が、校内研修の進め方等について説明を行いました。平成26年度校内研修（研究）の充実に関する研究グループ作成資料「校内研究を進めるためのQ&A」の内容に加えて、研究協議などで話し合いを活性化させる具体的な取組の例などについても説明され、理解を深めました。

## ミドルリーダー研修Ⅱ 平成27年7月27日（水） 会場 名寄小学校 13名参加

「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校である名寄小学校の取組をより詳細に説明いただき、質疑を交え、一層の学校力向上の取組について理解を深めました。

なお、ミドルリーダー研修で使用した資料を基に、各学校での出前講座を実施しております。

### 【ミドルリーダ研修Ⅰ】



### 【ミドルリーダー研修Ⅱ】



「学校力向上を目指して」

名寄小学校 教頭 里村 徹

**ミドルリーダー研修 出前講座**

# 学校力向上を目指して

「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校  
～名寄小学校の取組から～

名寄市教育改善プロジェクト委員会  
校内研修(研究)の充実に関する研究グループ


## 学校力に関する総合実践事業

管理職のリーダーシップの下で全校が一つのチームとなった包括的な学校改善を推進し「学び続ける学校」のモデルを提示することにより、従来の研究成果の更なる普及に資するとともに、当該校及び近隣校から将来のスクールリーダーを継続的に輩出する新たな仕組を構築する。  
学校力向上に関する総合実践事業実施要項 事業趣旨 より

**平成24年度 名寄小学校が「実践指定校」**  
**試行実施**

**平成25年度より本格実施**

【近隣実践校】8校  
名寄南小, 名寄東小, 名寄西小, 風連中央小, 名寄中, 名寄東中, 智恵文中, 風連中



## 学校力とは

学校が一体となり組織的な力を生む教育力

**学校がチームとなって**

共通 徹底 一貫 継続

**取り組むことで学校力が向上する!**



### 学校力向上に向けた学校改善の視点

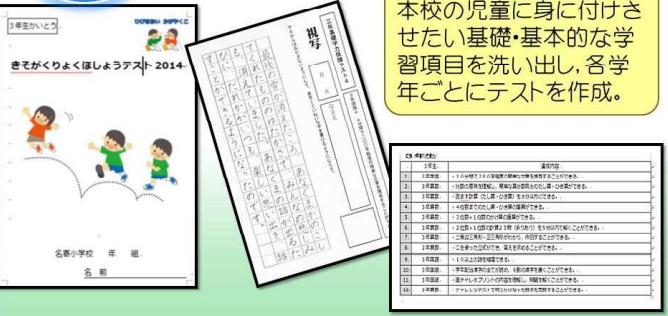
教育課程指導方法等	地域・家庭との連携	人材育成	学校マネジメント
ア 学年ごとの最低限の到達目標を設定(学力、体力、生活リズム等)	ア 学校支援対策本部の設置及び活動の促進	ア 若手教員や将来のスクールリーダーの計画的な育成	ア 学校の改善サイクルの実質化・迅速化
イ 発達段階を踏まえた全学年における学習規律・生活規律の統一・徹底	イ コミュニティ・スクール導入の積極的検討	イ 初任者研修等の自校実施	イ 外部からの継続的な指導助言を踏まえた教育課程・指導方法等の不断の見直し
ウ 各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法の確立	ウ 地域と連携した土曜日の活用の在り方の見直し	ウ 放課後テーマ別研修への近隣実践校教員参加の積極的受け入れ	ウ 道立教育研究所・北海道教育大学教職大学院との連携
エ 体力向上のための取組	エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保	エ 日常授業の改善に直結する校内研究(研修)の重点化	エ 成果・課題の積極的発信
オ 特別な支援を要する児童生徒へのきめ細やかな指導	オ 社会教育との積極的な連携・社会教育プログラムの活用	オ 通常学級に在籍する発達障害のある児童生徒への指導や支援に関する校内研修プログラム	オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保
カ 学校間連携	カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築	カ を活用した研修実施	カ 全ての児童生徒がより良い学習に集中できる学校環境
キ 総合的な学習の時間と各教科との関連の重視	キ 休日や長期休業中の等の補充的学習サポートの実施等	キ 実践指定校の取組を普及する市町村単位の件数の実施	キ 教室環境の整備



教育課程指導方法等

- 基礎学力保障テスト
- 全国学テ過去問題実施
- チャレンジテスト・サポートテストの実施・分析
- 漢字早期学習

本校の児童に身に付けさせたい基礎・基本的な学習項目を洗い出し、各学年ごとにテストを作成。



**教育課程指導方法等**

ヒルスタ	グングンタイム
少人数指導 習熟度別少人数指導	めいしょう寺子屋

少人数・習熟度別指導  
放課後グングンタイム  
めいしょう寺子屋  
ヒルスタ

**教育課程指導方法等**

詩の語り	あいさつ運動
うたごえ集会	読書(学級50冊文庫)

詩の語り  
うたごえ集会  
あいさつ運動

①各学級で詩の語りに取り組み、朝会で発表する。  
②朝の会で歌を歌う。  
③図書館や学校図書などから本を借り、学級に50冊の本を用意する。

**教育課程指導方法等**

学習のきまり週間の取組	きまりの視覚化
立腰・机上整理	手の挙げ方・話の聞き方

学習規律

立腰  
学習のきまり  
授業が始まるまでに!!  
石巻の人 筆記用具は上  
教科書は左 ノートは右

全校で学習のきまりをしっかり守れるよう、定期的いきまり週間を設け全校で実態を把握し、指導に活かしています。

**教育課程指導方法等**

教室環境の統一	履き物を揃える
---------	---------

整理整頓

様々な児童にとって、教室を集中することのできる環境にと、心がけています。教室前面はできるだけすっきりさせ、壁面には、既習事項の掲示をして、いつでも復習できるようにしています。また、机の中やロッカーの整理整頓の指導も行っています。

**教育課程課指導方法等**

めいしょう子マラソン	どさんこ元気アップへの参加
------------	---------------

食育の推進

全校で名小っ子マラソン・どさんこ元気アップに取り組んでいます。週に一度朝学習の時間に自分の目標に向かって走っています。本校勤務の栄養教諭による食育も定期的に各学級で行っています。



地域・家庭との連携

**学生ボランティアの活用** **チョコット先生の活用**

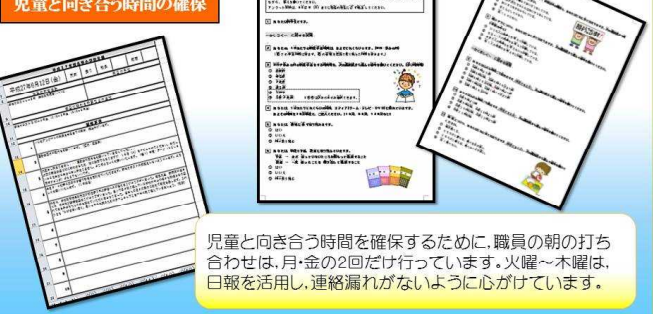
保護者・地域の方・名寄大学の学生による外部講師による放課後学習の支援を推進しています。  
保護者・地域の人からなる「チョコット先生」の取組では、家庭科実習の支援、水泳学習、スキー学習など多岐に渡って授業のサポートをしてもらっています。



地域・家庭との連携

**保護者アンケートの活用** **名小アンケートの活用**

保護者アンケートや名小アンケートなどの実態調査を年2回実施・分析し、指導に反映させています。調査の結果は、保護者に公表し、家庭での協力を呼びかけています。



人材育成

**初任者研修の自校実施** **ジョブシャドーイング**

放課後ミニ研修



人材育成

**メンターチーム活動**



人材育成

**多様な教育活動の企画**

平成26年度の学校力向上に関するアドバイザーによる教育講演会は、7月に野中先生、10月に谷川先生、1月に佐々木先生の計3回行いました。その他にも、長期休業のタイムラグを生かした先進地域の教諭による研修で、福井県より授業名人である小林先生をお招きし、師範授業を行いました。



学校マネジメント

**ホームページによる発信** **加配職員による校務役割分担**

稟議システムによる会議回数の削減



「校内研修を推進するために」

智恵文中学校 教頭 森田 繁

校内研修を推進するために

- ★研究を進めるための手順
- ★研究主題の設定について
- ★研究仮説の設定について
- ★研究の全体構造について
- ★授業研究について
- ★研究の検証について

平成27年度名古屋市政教育改善プロジェクト委員会  
校内研修(研究)の充実に関する研究グループ

★研究を進めるための手順★

マネジメントサイクルを取り入れて校内研修を進める

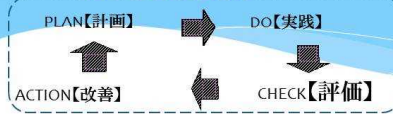
(1) 研究主題・副題の設定

(2) 研究仮説の設定

(3) 研究内容の設定

(4) 研究構想の確立

(5) 授業実践



○研究主題・主題・研究仮説を学校の実態に即して検討します

○研究構造図を示し、研究の全体像の共通理解を図ります

○教科部会やブロック会議で指導案を検討、授業実践を行います

○アンケート等をもとに研究の検証を行います

★研究主題はどのように設定するとよいでしょうか★

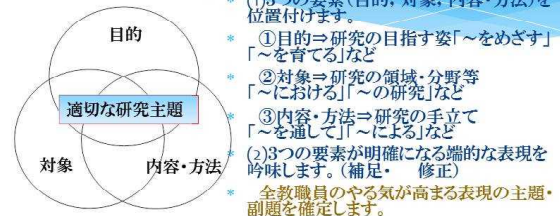
〈研究主題とは〉研究推進上の課題を焦点化し、校内研究の目的、対象、内容・方法を端的に表現したものです。そのため、学校の年度の重点目標、子どもの実態や保護者・地域・教員が抱くもの等を踏まえることが必要です

- 今年度の学校の重点目標  
「分かる・楽しい授業の実践」
- 児童生徒の実態から  
「学習への取組は意欲的であるが、周りとの関わりから新たな価値を見いだす取組は苦手である」
- 昨年度の成果から  
「グループ学習やペア学習の場を設定することにより、積極的に周りとの関わりを持つ姿が見られるようになった」
- 今日的な教育課題  
「言語力、コミュニケーションの育成が求められている」

- \* 【研究主題】
- \* 「進んで関わりを深め、主体的に取り組む生徒の育成」

研究主題は研究の目的、対象、内容方法の3つの要素を位置づけ、端的に表現することが大切です

3つの要素を位置付けし文章化します。



- \* (1)3つの要素を位置付けし文章化します。
- \* ①目的⇒研究の目指す姿「～をめざす」「～を育てる」など
- \* ②対象⇒研究の領域・分野等「～における」「～の研究」など
- \* ③内容・方法⇒研究の手立て「～を通して」「～による」など
- (2)3つの要素が明確になる端的な表現を吟味します。(補足・修正)
- \* 全教職員のやる気が高まる表現の主題・副題を確定します。

3つの要素を位置つけた、研究主題は、次のようなモデルで表すことができます



研究主題を具現化するために、研究の副題を設定することもあります。研究主題と副題により、研究の構相が明らかになります。

- 主題「目的・対象」→「目指す子ども像」
- 副題「内容・方法」→「具現化するための授業像」

(例①) 主題が「目的・対象」 副題が「内容・方法」

「主題」 主体的に学び、自分の思いを豊かに伝え合う子どもの育成  
「副題」 国語科における言語活動の工夫を通して

「主題」 豊かにかかわり、自ら学びを高めていく子ども  
「副題」 進んで自分を表現し、学ぶ楽しさを実感する授業

(例②) 主題が「内容・方法」 副題が「目的・対象」

「主題」 豊かな心と確かな学力を育む授業づくり  
「副題」 主体的な学び合いを通して自己を高める子どもの育成

★研究仮説はどのように設定するとよいでしょうか★

研究仮説とは、研究の見通しや研究結果の予測にあたるものです。主に研究主題に迫るための考え方や方法を示し、研究の手立てや目指す子ども像について全教職員が共通理解を深めるためにも、具体的な研究仮説を設定することが大切です。

研究仮説は、次のようなモデルで表すことが多い。

- 〇において (研究の場や範囲)
- 〇を○〇することによって (研究の手立てや重点の方向性)
- 〇となる(であろう) (研究結果の予測、目指す子ども像)

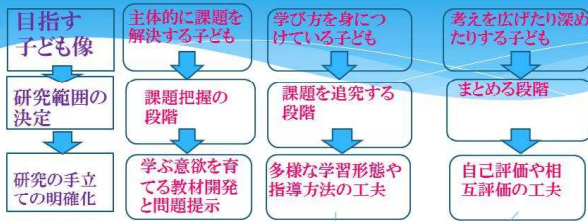
「研究主題」 進んで関わりを深め、主体的に取り組む生徒の育成

例にして、手順を踏んで考えてみましょう



## 研究仮説設定の手順

(例)「研究主題」進んでかかわりを深め、主体的に取り組む生徒の育成



### 【研究仮説1】

課題把握の段階において、学ぶ意欲を高める教材開発や問題提示を行うことによって、主体的に課題を解決する力を高めることができるであろう。

### 【研究仮説2】

課題を追究する段階において、多様な学習形態や指導方法の工夫を行うことによって、学び方を身に付けさせることができるであろう。

### 【研究仮説3】

まとめる段階において、自己評価や相互評価の工夫を行うことによって、考えを広げたり深めたりする態度を養うことができるであろう。

## ★研究の全体構造はどのように構想するとよいでしょう★

〈全体構造とは〉

学校の教育目標と研究主題の関連など、研究推進の内容や背景、道筋を主体的に話し、すべてが教師が長遠理解のもとで研究を推進するために、研究の内容や方向性を体系的に表すものです。

学校教育目標

○学校の教育目標や年度の重点目標から導き出された課題の解決につながる研究主題を設定

年度の重点目標

研究主題

○研究主題で示された研究の目的をもとに、より具体的な目指す生徒像を位置づける

目指す生徒像

○目指す子ども像に迫るための手立てを考え研究仮説を位置づける

研究仮説

○研究仮説で示された手立てを研究内容として具体的に位置づける

研究内容

## ★授業研究はどのように進めるとよいですか★

研究授業の後に校内研修等で話し合う場面があります。その手法の一つとしてワークショップ型研修を活用することにより、全教師で課題を捉え、改善策を考え、実行することが可能となります。

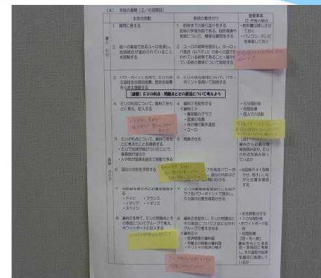
- ◆協議のテーマがはっきりせず、話し合いが深まらない
- ◆授業者に遠慮があり、発言しにくい
- ◆発言する人が限られている
- ◆ベテラン教員が発言した後では、若い先生は発言しにくい
- ◆協議が感想に終始する

### ○ワークショップ型の研修方法

KJ法 短冊法 指導案の拡大シート

マトリクス法 概念化シート

## 指導案の拡大シート



- ①参観した授業について、「良い点」「課題」を2色の付箋に記述します。
- ②授業の学習指導案を拡大コピーし、協議グループごとに配付します。
- ③付箋に記述した内容を説明しながら、指導案拡大シートの該当箇所は貼っていきます。
- ④貼り終わったところで、付箋の内容について説明します。
- ⑤グループ協議の内容を全体で発表します
- ⑥「課題」については、改善策を考えます。
- ⑦まとめを行い、協議結果を踏まえ、授業改善に取り組みます。

## マトリクス法

	問題解決的な学習	学習意欲
良い点		■
改善点	■	■
解決策	■	

付箋を添付

- ①シートの縦軸に「良い点」「改善点」「解決策」を、横軸に学校や校内研修等の取組の重点など協議の視点となる項目を設定します。
- ②シートを協議グループ毎に配付します
- ③授業中や授業後に付箋に記述した内容を説明しながら、シートの該当箇所に貼っていきます。
- ④貼り終わったところで、協議の視点の「良い点」「改善点」について確認します。
- ⑤改善点については、具体的に改善策を考えます。
- ⑥協議の内容を全体で発表します
- ⑦改善策を整理し、それを生かして、授業改善に取り組みます。

## ワークショップを活用した授業研究より

- 「同僚性」が構築される
- 一人ひとりが参加したという「充実感」がもてる
- 成果と課題、改善策が「視覚的」に明らかになる
- 一定の時間内で、成果を生み出すことができる
- 授業を多面的に見るようになる

児童生徒が自分の考えを付箋等に記述したものを、KJ法を用いて関連性を踏まえて、整理させ、学習課題を考察し解答を導くなど、授業にも活用することができます。

### ★研究の検証はどのように行うとよいでしょうか★

年度末には、研究の成果と課題を明らかにし、次年度に向けて研究の方向性を定めます。評価の方法は、教員へのアンケートや児童生徒への意識調査などがありますが、授業実践の改善をはじめ児童生徒の変容などの成果と課題をまとめていくことが基本となります。

#### 〈年度末評価の視点(例)〉

- 主題、副題は学校の実態に即しているか
- 研究の目的や内容、方法が明確になっているか
- 授業研究により、子どもの変容が見られたか
- 適切な研究推進計画が立てられ、協働研究となる体制がとられているか



## 【資料2】 出前ミニ講座

校内研修（研究）の充実に関する研究グループでは、昨年度に引き続き、出前ミニ講座を実施しました。

出前ミニ講座の目的は、次の2点です。

- (1) 初任段階の教職員に、学校力を高め日常の授業改善に直結する校内研修（研究）の進め方やチームの一員としての校内研修（研究）への関わり方等について理解を深める。
- (2) 講師を務める本グループの研究員の、ミドルリーダーとしての力量を高める。

出前ミニ講座の実施に先立ち、ミドルリーダー研修ⅠとⅡを実施し、出前講座で使用するプレゼンテーション資料を基に、出前講座に向けて研修しました。

出前講座では、「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校である名寄小学校の取組を基に「学校力向上を目指して」と、平成26年度校内研修(研究)の充実に関する研究グループ作成資料「校内研究を進めるためのQ&A」を活用した「校内研修を推進するために」の2つのテーマについて、プレゼンテーションを実施しました。

### 【出前ミニ講座実施一覧】

No.	派遣研究員名	出前ミニ講座実施校	実施日	備考
1	林 琢磨（名寄小学校）	名寄南小学校	8月26日（水）	
2	手塚 佳（名寄小学校）			
3	大沼 房子（名寄南小学校）	豊西小学校	8月24日（月）	
4	河田紗生子（名寄西小学校）	風連中央小学校 風連下多寄小学校	9月 1日（火）	会場は風連中央小学校
5	折田 恵（名寄東小学校）	中名寄小学校	8月24日（月）	
6	香川 寛明（豊西小学校）	智恵文小学校	8月24日（月）	
7	見田由美子（風連中央小学校）	名寄東小学校	8月25日（火）	
8	山下 慎吾（名寄中学校）	風連中学校	8月19日（水）	
9	辻 典男（名寄東中学校）	智恵文中学校	7月21日（火）	
10	早川 裕章（風連中学校）	名寄東中学校	8月26日（水）	
11	安達 義徳（智恵文中学校）	名寄中学校	8月26日（水）	

### 【8月24日実施の出前ミニ講座 豊西小学校】

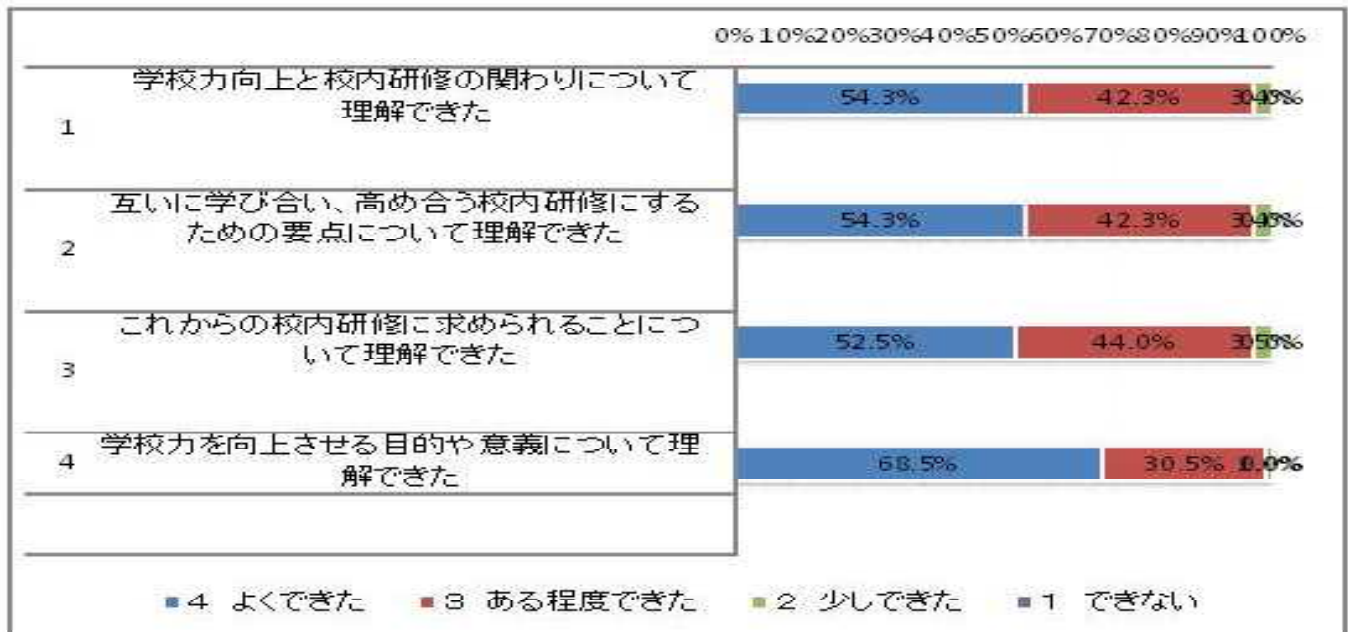


【出前講座アンケート集計の結果】

教職経験年数

1～4年	5～9年	10～19年	20年～
58%	18%	16%	8%

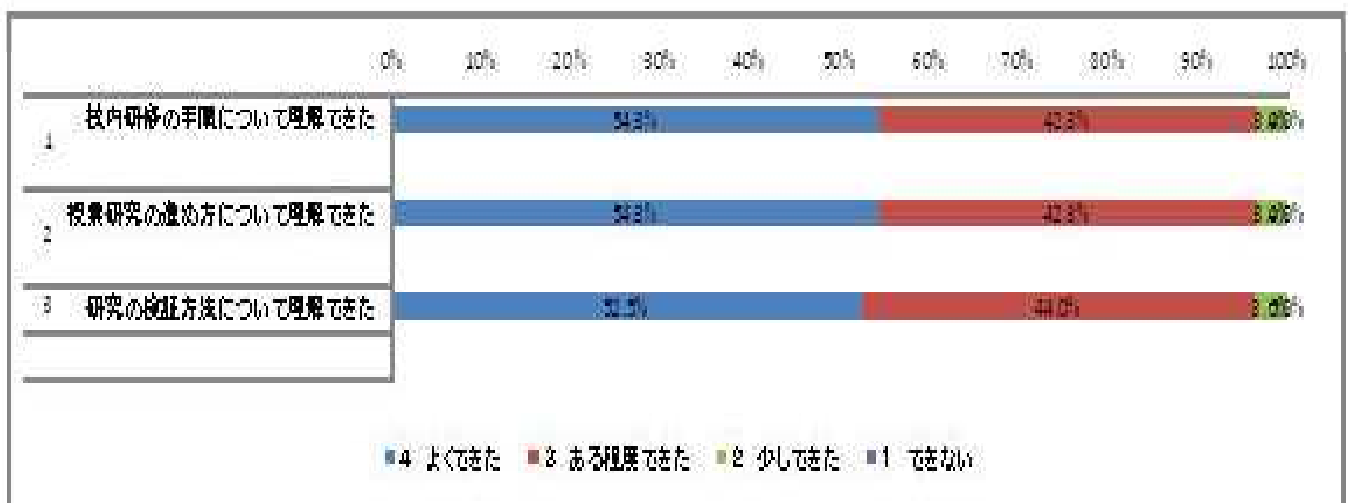
1 学校力向上について



【考察】

- 昨年度より、1・2・4の項目で「4 よくできた」「3 ある程度できた」の割合が、昨年度より1～5%高くなった。
- 講師を務めた同研究グループ研究員の、ミドルリーダーとしての力量や説明能力の向上に繋がった。

2 校内研修について



【考察】

- 昨年度より、すべての項目で「4 よくできた」「3 ある程度できた」の割合が、昨年度より3～10%高くなった。
- 学校力を高める校内研修(研究)の進め方や、組織で行う校内研修(研究)への関わり方について、認識が深まった。

平成27年度

名寄市教育改善プロジェクト委員会  
校内研修（研究）に関するグループ

### 【資料3】

## 学校力向上に関するアンケート 結果一覧（一部抜粋）

P1 4～1 6	①名寄小学校（実践指定校）
P1 7～2 1	②風連中央小学校（近隣実践校）
P2 2	③豊西小学校
P2 3	④東風連小学校
P2 4	⑤名寄中学校（近隣実践校）
P2 5	⑥智恵文中学校（近隣実践校）

名寄市教育改善プロジェクト委員会 校内研修（研究）に関するグループ

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ 学校力向上に関する取組状況についてのアンケート

学校名 [名寄市立名寄小] 記入者 [ 里 村 徹 ]

【取組内容】

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ

要綱記載内容		該当項目に○	特に重点的に取り組んでいる事例(◎)や効果があった事例(☆)を記入
1 教育課程・指導方法等	ア 学年ごとの最低限の到達目標の設定	○	①4月実施の全国学力・学習状況調査を学力向上部において5月中に分析、6月中には教育課程へ反映させ、指導に生かす。 ②生活実態調査を年2回実施・分析し、指導に反映させる。また、保護者への公表と協力の依頼を行う。生活実態調査における「メディアに触れる時間が2時間以下」という児童を平日H26 87%→90%へ。休日H26 56%→60%にする。 ③新体力テストの結果の分析を1学期中に行い、2学期の教育課程に反映させ、指導する。新体力テストにおいて全国より優れている種目を1種目増やす。 ④TK式標準学力検査と知能検査の相関において平成26年度77歳児-77歳児-33名を25名にする。 *今年度始めにTK式を実施し、年度末にCRTに移行する。 ⑤全国学力・学習状況調査の国語AB、算数ABにおいて全国平均以上にする。 ⑥年間の算数・国語の単元テストを集計分析し、指導に生かすとともに、クラスの平均を80点以上にする。 ⑦年間の算数・国語の単元テストを学期ごとに集計分析し、各学年の達成状況において、課題の見られる領域等については、次学期の指導で克服し学力の向上を図る。
	イ 発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底	○	①学期に1度の点検を行い、全校での定着率向上させる。 ②生活実態調査やメディアチェックシートによる実態調査等、それぞれの調査ですべての項目での向上を目指す。 ③保護者アンケートの4段階評価においてAとBの割合を次の通りとする。・学習習慣の定着を80%以上(H26 78%)・基本的な生活習慣90%以上(H26 93%)
	ウ 各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法(詳細は「実施要綱」を参照)	○	①TK式標準学力検査において3・4・5の評定の児童を以下の教科において80%以上を目指す。26国語78.2% 算数76.2% ②H27全国学力・学習状況調査全国平均以上 ④児童アンケートの4段階評価においてAとBの割合を次の通りとする。・「授業はわかりやすく楽しい」H26 91%→維持・「TTの先生が」と授業がわかりやすくなる」H26 97%→維持、保護者アンケートの4段階評価において AとBの割合で以下の数値を目標とする。・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」H26 92%→維持・「先生は、わかる楽しい授業のために、授業に工夫や配慮をしている。」H26 95%→維持 ⑤ICT機器の日常的な活用と実践の構築 ・低学年におけるドリルのソフトの活用・各学年におけるFLASH教材の活用 ⑥漢字早期学習実践の推進と検証、改善工夫
	エ 体力向上のための取組	○	①新体力テスト全国平均以上を現状より1種目増やす。 ②短縄とびの検定での個人目標の達成率を8割以上にする。
	オ 特別支援学級や通常の学級における特別な教育的支援を要する児童生徒へのきめ細かな指導	○	①担当教員が設定する自立活動の到達目標達成6割以上 ②いじめ調査の児童アンケートにおいていじめを0にする。(H26 0) 保護者アンケートの4段階評価においてAとBの割合を次の通りとする。・「学校は、いじめのない学級づくりに取り組んでいる」を90%にする。H26 93%→維持
	カ 学校間連携	○	①各保育所、幼稚園に対応した体験入学の実施、生活科での1年児童と年長児との交流会を1回計画する。幼保小の連携会議を年度始めと年末に1度ずつ実施し、情報交流を行う。引き継ぎ前の学予定前幼児の行動観察を行う。 ②全教職員による中学校授業参観 ③中学校教員による出前授業を1教科で実施。 小中連携会議を年度始めと年度末で実施し、情報交流を行い、各学校での指導等についての共通理解を図るとともに指導の改善を図る。中学校体育教員による体育授業を行う。
	キ 「総合的な学習の時間」と各教科との関連の重視	○	①総合的な学習の時間と各教科との関連表に基づき、実践する。 ②地域教育資源の整理と発掘地域資源マップ、人材バンクの積極的な活用を図る
2 地域・家庭との連携	ア 学校支援地域本部の設置及び活動の促進	○	①外部講師招聘延べ50名以上(チョット先生等)

	イ コミュニティー・スクール導入の積極的検討		
	ウ 地域と連携した土曜日の活用の在り方の見直し	○	①各種行事への参加総数を100人以上に設定する。 ②地域参観日に参加された方へのアンケートの実施、4段階評価においてAとBの割合を次の通りとする。 ・「分かる楽しい授業」の項目で90%を目指す。
	エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保	○	①27年度は学校運営のより一層の見直し、業務の効率化を図る。また、稟議については26年度より実施しており、一層の定着を図る。 ②27年度行事の時間及び本校独自の活動の時間を大幅に見直し、その実施、検証と日常の指導の改善を図る
	オ 社会教育との積極的な連携・社会教育のカリキュラム化	○	①市教委主催の行事への参加総数を100人以上に設定する。 ②保護者アンケートの4段階評価においてAとBの割合を次の通りとする。 ・「土日の地域行事には子どもを参加させるようにしている」を80%以上にする。
	カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築	○	①学校教育活動に関わる保護者の4段階評価においてAとBの割合を次の通りとする。 ・「学校へ行くのが楽しみ」H26 95%→維持・「分かる楽しい授業」H26 92%→維持・「教育方針等の発信」H26 98%→維持・「地域の要望に応じている」H26 95%→維持・「学校改善」H26 93%→維持 ②迅速な処理と成果と課題の整理、情報提供
	キ 休日や長期休業中等の補充的学習サポートの実施と学校サポーターの積極的活用	○	①長期休業中の学習「めいしょう寺子屋」の実施(夏、冬) ②「ぐんぐんタイム」放課後学習の実施(全学年) ③「スッキリタイム」朝学習の実施 ④「ヒル☆スタ」給食準備中の学習 ⑤名寄市立大学の学生による学校サポーターなどによる連携 ⑥チョコット先生(学校支援ボランティア)の活用
3 人材育成	ア 若手教員やスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組	○	①全学級で学期に1度の授業公開 ②管理職による授業巡回毎日1時間以上 ③学力向上部、研究部によるOJT計画の策定と実施日常の指導に直結したミニ研修の実施10回
	イ 初任者研修、10年経験者研修等を本校で実施	○	①指導路案作成35回以上 ②担当による計画の策定と実施 ③指導主事等の積極的な活用(学期に1度以上)
	ウ 放課後のテーマ研修への近隣実践校教員参加の積極的受入れ	○	①校内研修中心・研究教科による授業公開1回以上
	エ 日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化の重点化	○	①他校等への研修に全員が1度は参加する。 ②本校での研究教科外の授業公開を1度は行う。 ③学力向上部、研究部によるOJT計画の策定と実施日常の指導に直結したミニ研修の実施10回
	オ 通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒への指導や支援に関する校内研修プログラムを活用した研修の実施	○	①特別支援委員会での支援を要する児童の共通理解と少人数指導(TT、習熟度別)や支援員の配置等の手立ての確認し個別指導に当たる。 ②校内研修での「校内研修プログラム」の研修の実施
	カ 実践指定校の取組を普及する市町村単位の研修の実施	○	①教育改善プロジェクト委員会校内研修グループのミドルリーダー出前講座で市学校力の内各校に学校力向上の取組について情報発信を行う。 ②アドバイザー研修への参加を広く呼びかけ、学校力向上の取組を発信する。 ③地域連携研修等で全学級の授業を公開する。
4 学校マネジメント その他	ア 学校改善サイクルの実質化・迅速化	○	
	イ 外部からの継続的な指導助言及びそれを踏まえた教育課程・指導方法等の不断の見直し	○	①学校力向上アドバイザーを招聘し、指導助言を教育課程・指導法の改善に生かす。

ウ 必要に応じ、道立教育研究所・北海道教育大学教職大学院等との連携	○	①学校力向上アドバイザーとして、北海道教育大学旭川校教職大学院の水上丈実教授を要請する。 ②教職員大学院の学生にもアドバイザーの講演や公開授業への参加を呼び掛ける。
エ 成果・課題の積極的発信	○	①HP更新年5回以上 ②学校便りの発行年12回 ③参観日の案内年8回（案内先を拡大し、学校での活動を広く公開する。）
オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保	○	①26年度から実施している稟議についての一層の定着を図る。
カ 発達障がいのある児童生徒を含む全ての児童生徒が、より学習に集中できるようにするため の校環境、教室環境の整備	○	①教室内児童用パソコンの充足10台 ②名寄市学習規律の全教室掲示と徹底、点検



【近隣実践校の取組（名寄市立風連中央小学校）】

1 教育課程・指導方法等 イ 発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底 カ 学校間連携

26実施報告書		27実施計画書			
26成果及び課題	26到達目標に対する結果	具体的取組内容	到達目標	成果の検証方法	
1 教育課程・指導方法等	<p>○名寄市で各学校共通の課題となっている学習規律の項目（学習用具の準備・正しい姿勢・聞き方・話し方）について指導月間を設定し、指導を徹底した。それ以外にも、本校で課題としている学習規律についても指導月間を設けて指導を徹底した。</p> <p>○学習規律が徐々に身に付き、学習への集中力が上がり、『みんなが出来ているから自分も做う』という風土が醸成された。</p> <p>●学年間で学習規律の定着に偏りが見られることから、校内で一層徹底を図る必要がある。</p>	<p>①児童アンケート結果：58%</p> <p>②保護者アンケート結果：30%</p> <p>③学校評価での「児童に学習規律が定着している」のA/B評価：88%</p> <p>「学習規律が定着するよう教師側が取り組んだ」のA/B評価：94%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『名寄市教育改善プロジェクト委員会』との連携</li> <li>「名寄市学習規律」及び学習の「約束やきまり」の指導の徹底</li> <li>月別重点項目の設定、達成度の校内調査</li> <li>校内研修による学習規律の内容確認と共通理解</li> <li>保護者、地域への取組内容、達成度の公表</li> </ul>	<p>①児童アンケートにおける「約束、きまり」のA判定を60%以上にする。</p> <p>②保護者アンケートにおける「規律の定着」のA判定「十分」を30%以上にする。</p> <p>③学校評価における「規律の徹底」のA・B評価の合計を90%以上にする。</p> <p><b>*全校で統一した「学習規律」「学習過程」の徹底 校内研究との関連</b></p> <p>机上、教室環境など重点的に取り組む項目</p> <p><b>*「生活習慣、規範意識、規律」の徹底</b></p>	<p>①児童アンケート</p> <p>②保護者アンケート</p> <p>③学校評価</p> <p>①②③ 実施、記録の成果と反省、改善点の集積</p>
	<p>○幼稚園、中学校の参観日に複数の教員で参加し、情報交換したことにより、相互連携や互いの学校の状況の把握ができた。また、一日入学や出前授業を通して、入学時の送り出しや受け入れが円滑に進んだ。</p> <p>●今後は、より多くの教員が授業参観等を通して他種校の状況把握に努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園、保育園との情報交流園児の1日入学の実施</li> <li>幼稚園、小学校、中学校教諭の相互授業参観</li> <li>中学校教員による出前授業</li> <li>中学校への1日体験入学</li> <li>風連地区3小学校と中学校が連携した『風夢プロジェクト』事業の実施（交流学習、作品展、クリーン作戦）</li> <li>道徳、外国語活動を中心とした、中学校との教育課程の相互理解・接続</li> </ul>	<p>①幼稚園・保育園と交流する。（参観日の出席と幼児・児童の情報交換）</p> <p><b>*参観より情報交換</b></p> <p>②中学校の授業を参観する。（全教員の3割参加を目標）</p> <p>→必要に応じて</p> <p>③中学校教員による出前授業を実施する。（2時間以上）→1時間</p> <p>④中学校と教育課程連携会議を実施する。</p> <p><b>*参観より情報交換</b></p>	<p>①②③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査結果</li> <li>生活リズムチェックシート</li> <li>児童アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>日常観察</li> </ul> <p>①評価結果と改善内容の記録化</p> <p>②保護者アンケート</p>	

具体的取組とその成果について

具体的取組		検証方法(担当)	結果	改善・方策
イ 発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底				
1 全校で統一した「学習規律」「学習過程」の徹底 校内研究との関連				
(1) 学習指導に関して		向上部	<b>効果あり 一層の徹底</b>	
①学習規律の徹底＝名寄市学習規律10項目の徹底		①月ごとの重点の設定と定着の確認（評価表による）(教務部)	教師、児童の評価から特に努力を要する点	
・教師による評価				
・児童による評価(2学期より追加)				
・挙手、返事、机上、持ち物、立腰等				
②教室環境に関わる共通事項		どこを共通化するかを検討(向上部)	2学期共通で取り組む点	
(2) 昨年度までの研究で定着を図った「学習過程」のより一層の徹底と他教科への転用		①授業研究	<b>効果あり 一層の徹底</b>	
①基本的な学習糧の基本形を提示(研究部)		②日常の授業における管理職の授業観察		
②「課題とまとめ」の概念に関する共通理解と各学年での徹底				
③児童アンケートの実施と経年変化、分析、工夫改善		③研究部	<b>*アンケート結果</b>	
2 「生活習慣、規範意識、規律」の徹底<共通、徹底、一貫、継続			<b>今年度は、実態把握に努める</b>	
(1) 生活指導に関して		①アンケートによる(向上部)	<b>新規 効果あり 一層の徹底</b>	
①「中央小アンケート」の実施と実態把握、分析、工夫改善			あ) 27年度前期の全校の実態	
27年度より実施、年2回			家庭学習時間の平均	平日46.1分
年度内、経年による変化				休日51.9分
あ) 家庭学習、メディアに触れる時間、運動時間		生徒指導	家庭学習を必ず行う	97%
い) 読書時間、起床就寝時刻		生徒指導	予習を行っている	57%
う) 携帯電話の所持		生徒指導	復習を行っている	79%
			メディアに触れる時間	平日80分
				休日152.6分
		生徒指導	2時間以下	平日91%休日65%
		向上部	運動時間	
			ほとんど毎日、週3から4回	80%
え) いじめに関する				
お) 自己有用感				

		い) 読書時間, 起床就寝時刻 <b>読書時間</b> 起床時刻7時以前 87% 就寝時刻10時以前 平均睡眠時間 う) 携帯電話等の所持 所持率 4割 利用時間(対17) 4割の児童が1から5 時間* 21%* 約束事がある え) いじめに関する 全市との比較 いやがることをしていない 86% 目標90% 助けることはできるか 68% 目標75% 友達を大切にしているか 92% 目標100% いじめのない明るい学校か 64% 目標100% H27全国学力・学習状況調査 いじめは, どんな理由が... 88.9% 目標100% (H26 100%) 6月いじめアンケート いじめは, どんな理由が... * お) 自己有用感 H27全国学力・学習状況調査 自分にはよいところ 50% (H26 80%) やり遂げてうれしかった 77.8% (H26 96%) 失敗を恐れず, 挑戦 61.1% (H26 68%) H27中央小アンケート 自分にはよいところ 80% (H26 76%)
--	--	---

具体的取組とその成果について

具体的取組			
カ 学校間連携	検証方法(担当)	結 果	改善・方策
1 学校間連携 ①幼稚園・保育園と交流する。(参観日の出席と幼児・児童の情報交換) 単なる参観・交流から, 情報交流の場を設定して実施する。 <u>場の設定(教頭)</u> ②中学校の授業を参観する。(全教員の3割参加を目標) <b>風夢プロジェクトの活用</b> <u>単なる参観・交流から, 情報交流の場を設定して実施する。</u> ③中学校教員による出前授業を実施する。 <b>風夢プロジェクトの活用</b> (2時間以上) <b>→1時間</b> <u>・中学校に乗り入れての授業を行う。</u> ④中学校と教育課程連携会議を実施する。 <u>②に連動させ, 行う。(特に, 総合的な学習, 英語)</u>	場の設定(教頭) 集合学習, 体験入学時で模索する(教頭) 上記と同じ ()は教頭が調査のこと	*単なる参加型, 事業交流型からの脱却 <b>検討中</b>	

【近隣実践校の取組（名寄市立風連中央小学校）】

2 地域・家庭との連携

エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保

カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築

26実施報告書		27実施計画書		
26成果及び課題	26到達目標に対する結果	具体的取組内容	到達目標	成果の検証方法
<p>2 地域・家庭との連携</p> <p>○「家庭学習の手引き」を全児童に配布・指導し、保護者にも参観日等で説明することを通して、家庭学習の習慣が身に付いてきた。</p> <p>○生活リズムチェックシートに取り組んだり、本校の課題となっている「ゲーム時間」についてゲーム依存に関する資料を用いて指導したりすることにより、ゲームの時間を縮減することができた。</p>	<p>①児童アンケート結果：90%</p> <p>②児童アンケート結果：86%</p> <p>保護者アンケート結果：69%</p> <p>※差が見られる。</p> <p>③4時間以上16%</p>	<p>・全国学力・学習状況調査の児童質問紙の分析をもとにした「学習時間、ゲーム・テレビ時間」等に対する生活指導</p> <p>＝生活リズムチェックシートの活用による学年・個人傾向の把握。発達の段階に応じた睡眠時刻や食事などのへ指導</p> <p>・家庭学習の習慣化に向けた指導、啓発用資料配付(家庭学習の手引き)</p>	<p>①朝食の摂取率を9割以上にする。</p> <p>②家庭学習の達成状況を8割以上にする。(学年×10分)</p> <p>③ゲーム・テレビの視聴4時間以上を0にする。</p> <p><b>*実態把握と家庭への啓発</b></p> <p>「早寝、早起き、朝ご飯」</p> <p>「メディアに触れる時間」</p> <p>「家庭学習や家(うち)読」</p> <p>実態のデータ</p>	<p>日常の授業参観・研究大会時のアンケート</p> <p>①H26全国学力・学習状況調査結果</p> <p>②NRT学力検査の結果</p>
<p>○本校の教育活動や課題改善への取組内容を広く公開し、保護者・地域から意見を得た。その評価内容や意見を教職員に還元することにより、課題を把握し、よりよい学校づくりに参画する組織体制が整った。</p> <p>●保護者・PTA役員からの意見の中で、家庭学習量の不足が大きな課題となっていることが分かったことから、今後は、学校・保護者が一体となった取組を一層進める必要がある。</p>	<p>①家庭学習に関する評価が低かった。</p> <p>②「個に応じた指導体制」</p> <p>A B評価：91%</p> <p>「基礎・基本の定着」</p> <p>A B評価：87%</p> <p>「情報提供」</p> <p>A B評価：96%</p>	<p>・年3回の学校評議会(7, 12, 2月)</p> <p>・PTA役員による評価(年度末)</p> <p>・運動会、学芸会等の行事や、学校の教育活動についての保護者アンケート</p> <p>・計画的な参観日公開(地域参観日での全学年道徳授業公開)</p> <p>・全国学力・学習状況調査の情報を全校の保護者に対して提供</p> <p>・「いじめ防止等対策委員会」の組織、取組内容の公表</p>	<p>①PTA役員による各設問評価のA B判定を8割以上にする。</p> <p>②学校教育活動に関わる保護者アンケートの評価を次ようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「個に応じた指導体制」のA B判定9割以上</li> <li>・「基礎・基本の定着」のA B判定9割以上</li> <li>・「情報提供」のA B判定9割以上</li> </ul>	<p>⑤NRT学力検査</p> <p>⑥全国学力・学習状況調査結果</p> <p>⑦単元テスト</p>

具体的取組とその成果について

具体的取組		検証方法(担当)	結果	改善・方策
<p>エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保</p> <p>カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築</p> <p>1 生活習慣等実態の把握と指導の徹底、工夫改善</p> <p>(1) 生活指導に関して&lt;&lt;共通、徹底、一貫、継続&gt;&gt;</p> <p>①「中央小アンケート」の実施と実態把握、分析、工夫改善</p> <p>27年度より実施、年2回</p> <p>年度内、経年による変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習、運動時間、メディアに触れる時間</li> <li>・読書時間、起床就寝時刻</li> <li>・携帯電話の所持(名寄市児童生徒補導協議会資料)</li> <li>・いじめに関する(いじめサミット、年2回のアンケート)</li> <li>・自己有用感</li> <li>・読書習慣</li> <li>・家庭訪問(4月)教育相談( 月)保護者懇談( 月)</li> </ul> <p>2 学校評価等を踏まえた学校運営上の工夫</p> <p>(1) 学年サポートチームの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭学習のチェック、テストの採点</li> <li>②学年通信、通知表等のチェック</li> </ul> <p>(2) 新たなるミッションにもとづく取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学年会計業務の事務への移行</li> <li>②給食事務の事務への移行(H28)</li> <li>③通知表印刷業務の事務生への移行</li> <li>④アンケート集計、チャレンジテストの掲載に関わる業務の事務生への移行</li> <li>⑤組織の見直し・・・学校力向上部の立ち上げ(2学期)</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の見直し</li> </ul> </ul> <p>(3) 学校行事、総合的な学習等の時数の見直し</p> <p>(4) 学校評価にもとづく学校改善の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の項目の見直し</li> <li>・集計の工夫、分析、改善工夫</li> <li>・具体的戦術の立案</li> </ul>	<p>①アンケートによる(向上部)</p> <p>生徒指導 生徒指導 生徒指導 生徒指導 向上部 教務部</p> <p>教頭 教頭</p> <p>教頭</p> <p>教務 教頭</p>	<p><b>効果あり(新規)</b></p> <p><b>児童の実態をつかみ、指導の成果を確認できる</b></p> <p><b>効果あり(新規)</b></p> <p><b>開始して間もないが、業務分担により、若干の負担は軽減できている。</b></p> <p><b>効果あり(新規)</b></p> <p>達成、次年度、給食事務は事務へ移行</p> <p>予定 <b>検討中、新規</b></p> <p>1学期末時点で検討中、道徳の見直しも早急に行う。</p>	<p>①家庭に関わる部分については、1学期末に実態を公表。2学期はじめの参観日にて、資料をもとに家庭への啓発を行う。</p> <p>*「早寝、早起き、朝ご飯」「読書習慣」運動を学校便りや懇談を通じて行い、意識の高揚を図る。</p>	

【近隣実践校の取組（名寄市立風連中央小学校）】

3 人材育成 ア 若手教員や将来のスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組 エ 日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化

26実施報告書		27実施計画書			
26成果及び課題	26到達目標に対する結果	具体的取組内容	到達目標	成果の検証方法	
3 人 材 育 成	○校内研修活動の中で、全員が授業公開し、若手教員が先輩教員から授業技術を学ぶ機会を設定した結果、若手教員の授業力が向上した。また、分掌業務では、管理職・部長の助言により若手教員が責任をもって学校運営に参画しようとする意識が高まった。	①巡回指導（2名指導を受けている）：32回 ①管理職の授業巡回：1日≒時間1, 2回	・授業交流による指導 ・T Tの指導教諭の事前、事後指導 ・管理職の日常的な指導	管理職による授業巡回を毎日≒時間以上行う。  <u>＊メンター研修、ミニ研修の計画的な実施</u> <u>＊学年団における日々業務の分担、研修の充実</u>	巡回指導記録・研修計画書や報告書
	○全員参加の研修体制をつくり、授業過程や評価活動を工夫することにより、子どもたちの基礎・基本の定着を図ることができた。 ●名寄市の教育改善プロジェクト委員会で進めている研究内容を校内研究と関連させ取り組む必要がある。	①算数の他に、道徳の授業公開も行った。 ②11月21日に実施 ③管理職による授業参観を実施した。	・名寄市の教育行政執行方針及び研究主題の具現化を目指す授業改善（市教研班研修や校内研修の充実） ・研究計画に沿った全学級の授業公開（1人1授業） ・実技研修の充実	①算数外教科の授業公開を行う。 ②名寄市教育研究大会で実践発表を行う。 ③管理職による授業参観を行う。（略案の作成） <u>＊メンター研修、ミニ研修の計画的な実施</u> <u>＊学年団における日々の研修の充実</u>	日常の授業参観・研究大会時のアンケート

具体的取組とその成果について

具体的取組	検証方法(担当)	結果	改善・方策
ア 若手教員や将来のスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組 エ 日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化			
1 日常の授業に直結した校内研修の確立 (1) 学習指導に関して<共通、徹底、一貫、継続> ①全校で統一して取り組むべき内容についての徹底 ・学習過程、ノート指導、板書、指導計画、学習規律等 * 教室環境 ②日常の授業の土台づくりを意識した継続的な取組  (2) 校内研究の「見える化」 ・共通理解のもとでの全校的な統一した取組  (3) 学年サポートチームの活用 ①メンターチームとしての高め合い	学校力向上部  研究部, 担任  研究部  教頭	効果ありであるが、より一層の教師同士の共通理解と指導の徹底を図る。(今までも行っていたが、あまい)  <b>取組中</b>  <b>課題</b>	①家庭に関わる部分については、1学期末に実態を公表。2学期はじめの参観日にて、資料をもとに家庭への啓発を行う。 * 「早寝、早起き、朝ご飯」「読書習慣」運動を学校便りや懇談を通じて行い、意識の高揚を図る。
2 検査結果や評価等を踏まえた指導方法工夫改善 (1) 児童アンケートや収集した情報を効果的に活用し、指導に生かす ①児童アンケートの結果分析 ②学習規律に関するアンケートの結果分析 ③N R T標準学力テストの結果分析 ④全国学力、学習状況調査の結果分析 ⑤新体力テストの結果分析 ⑥単元テストの結果分析(効果あり)  ⑦漢字のテスト(指導、確認→効果あり)	生徒指導 学校力向上部(教務) 学校力向上部(教務) 学校力向上部 学校力向上部(保体部) 学校力向上部(研修部)	効果あり(新規) 児童の実態をつかみ、指導の成果を確認できる。  全校平均 国語話す聞く 84.7 書く 87.7 読む 89.5 言語 89.0 算数技能 89.7 数学的な考え方 86.3 知識理解 93.0  2から6年の平均 93.7	
3 今日的課題や本校の課題に対応した研修の実施(ミニ研修)	学校力向上部(教務)	課題	

【近隣実践校の取組（名寄市立風連中央小学校）】

4 学校マネジメント・その他

ア 学校の改善サイクルの実質化・迅速化

オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保

26実施報告書		27実施計画書			
26成果及び課題	26到達目標に対する結果	具体的取組内容	到達目標	成果の検証方法	
4 学 校 マ ネ ジ メ ン ト ・ そ の 他	<p>○「学力向上委員会」が中心となって学習・生活の両面から児童を分析し、改善策を講じて取り組むことができた。また、ロードマップ・学校改善プランを全体で共通理解を図り、現状分析、目標の共有化など組織的な取組を進めることができた。</p> <p>●体力についての課題に対する改善策が具体化されていないことから、来年度は「学力・体力向上委員会」を立ち上げる必要がある。</p> <p>○学級経営の交流を取り入れたことにより、他学級の取組を参考に経営することができた。また、行事の反省について時間を空けずに行うことができた。</p>	<p>○『学力向上委員会』の動きは計画どおり実施した。</p> <p>②NRT学力検査の活用は計画どおり実施した。</p> <p>③児童アンケートは2回実施した。また、<del>生活リズムチェックシート</del>の記入を2回「中央小アンケート」を実施し、長期休業後の生活リズムの見直しを図る上で有効活用した。</p>	<p>○データに基づく現状・課題の徹底的な分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査結果の徹底分析と改善策の策定</li> <li>・NRT学力検査結果の徹底分析と改善策の策定</li> <li>・各種アンケート、生活リズムチェックシートの結果分析と改善策の策定</li> <li>・体力テスト結果の分析と改善策の策定</li> </ul> <p>・『学力・体力向上委員会』による、ロードマップ・学校改善プランの見直し、作成全国学力・学習状況調査の採点の迅速化と分析、対応策の策定</p> <p>・新体力テストの分析・目標の設定</p> <p>・改善取組内容の策定</p> <p>・マネジメントサイクルでの各行事の実施</p> <p>○学年ごとの具体的な達成目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期、学年ごとの到達目標の設定と評価</li> <li>・次年度への改善（マネジメントサイクルの徹底）</li> <li>・達成目標は学級経営案に記載</li> <li>・学級経営案の交流と指導内容の確認</li> </ul>	<p>①4月に『学力向上チーム』において即時採点し、5月下旬に分析、6月中には教育課程に反映させ、指導に生かす。</p> <p>②1学期中にNRT学力検査の結果・分析をまとめ、今後の方策を全体で共有する。</p> <p>③児童アンケートを年2回実施し、分析、指導に反映させる。<del>生活リズムチェックシート</del>「中央小アンケート」等を使用し、年2回の教育相談に生かす。保護者への公表と協力の依頼を行う。</p> <p>④新体力テストの結果分析を1学期中に行い、2学期の教育課程に反映させ、指導する。</p> <p>⑤NRT学力検査においてアンダーアチーバーを0にする。</p> <p>⑥全国学力・学習状況調査において全国平均以上にする。</p> <p><b>*具体的取組</b></p> <p>⑦全学年単元テストにおいて80点以上を点数できる児童を70%以上にする。</p> <p><b>*データ集約、分析と経年変化等からの具体的手立て</b></p>	<p>①H26全国学力・学習状況調査結果</p> <p>②NRT学力検査の結果</p> <p>③④アンケート結果と指導への反映</p> <p>⑤NRT学力検査</p> <p>⑥全国学力・学習状況調査結果</p> <p>⑦単元テスト</p>
	<p>○会議では、可能な限り早期に資料を配付したり、話し合うポイントを決め、進行に努めたりしたことができた。また、長期休業に研修や職員会議を設定し、児童と向き合う時間の確保に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝の職員打合せ」なしの日（火・金）の設定</li> <li>※日報による連絡事項の徹底</li> <li>・毎週金曜日の定時退勤日</li> <li>・会議議事内容の精選による会議時間短縮</li> <li>・長期休業中の職員会議</li> <li>・加配教員を活用した校務の役割分担の見直し</li> </ul>	<p>①エクセルデータ共有による連絡事項の集約（日報）</p> <p>②資料前渡しによる会議時間の短縮</p> <p>③学年団による通常学級担任の業務の分担</p> <p><b>*外部への発信・・・HPの更新</b></p>		

具体的取組とその成果について

具体的取組		具体的取組		
ア 学校の改善サイクルの実質化・迅速化	検証方法	結 果	改善・方策	
1 データに基づく現状・課題の徹底的な分析 上記項目で述べたとおり (1) データの整理と集約、分析と経年変化等からの具体的手立て (2) 具体的取組<共通、徹底、一貫、継続>	学校力向上部他	他に同じ		
具体的取組		具体的取組		
オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保	検証方法	結 果	改善・方策	
1 業務見直しの徹底 (1) 計画に基づく改善 (2) 追加の項目 ①エクセルデータ共有による連絡事項の集約（日報） ②資料前渡しによる会議時間の短縮 職員会議における連絡の廃止 ③学年団による通常学級担任の業務の分担 ④外部への教育活動の発信・・・HPの更新 ⑤学習支援ボランティアの活用	教頭  学校力向上部(教務)	定着(新規、効果あり) 締め切りの厳守 課題 日報等へ移行、リアルタイムの提案 課題 効果検証中(新規) ほぼ達成(新規、効果あり) 高学年家庭科におけるボランティアを確保(新規、効果あり)		

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ 学校力向上に関する取組状況についてのアンケート

学校名 [ 豊西小学校 ] 記入者 [ 野宮 勉 ]

【取組内容】

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ

要綱記載内容		該当項目 に○	特に重点的に取り組んでいる事例(◎) や効果があった事例(☆) を記入
1 教育課程・指導方法等	ア 学年ごとの最低限の到達目標の設定		
	イ 発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底	○	◎月ごとに重点目標を設定し、全校で取り組む
	ウ 各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法（詳細は「実施要綱」を参照）		
	エ 体力向上のための取組	○	◎体力向上に向けた研修の実施、豊西1kmマラソン、縄跳び検定
	オ 特別支援学級や通常の学級における特別な教育的支援を要する児童生徒へのきめ細かな指導	○	◎副担制導入、言語通級指導担当職員の活用
	カ 学校間連携		
	キ 「総合的な学習の時間」と各教科との関連の重視		
2 地域・家庭との連携	ア 学校支援地域本部の設置及び活動の促進		
	イ コミュニティー・スクール導入の積極的検討		
	ウ 地域と連携した土曜日の活用の在り方の見直し		
	エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保	○	◎副担制導入、教科担任の拡大
	オ 社会教育との積極的な連携・社会教育のカリキュラム化		
	カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築		
	キ 休日や長期休業中等の補充的学習サポートの実施と学校サポーターの積極的活用	○	◎全教職員による長期休業中の学習会や放課後学習会の実施
3 人材育成	ア 若手教員やスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組		
	イ 初任者研修、10年経験者研修等を本校で実施		
	ウ 放課後のテーマ研修への近隣実践校教員参加の積極的受入れ		
	エ 日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化の重点化	○	◎言語活動の充実、ワークショップ型研修の実施
	オ 通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒への指導や支援に関する校内研修プログラムを活用した研修の実施		
	カ 実践指定校の取組を普及する市町村単位の研修の実施		
4 学校マネジメント その他	ア 学校改善サイクルの実質化・迅速化		
	イ 外部からの継続的な指導助言及びそれを踏まえた教育課程・指導方法等の不断の見直し		
	ウ 必要に応じ、道立教育研究所・北海道教育大学教職大学院等との連携		
	エ 成果・課題の積極的発信		
	オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保	○	◎複数の教職員による給食指導、担任業務の分担
	カ 発達障がいのある児童生徒を含む全ての児童生徒が、より学習に集中できるようにするための校環境、教室環境の整備		

# 教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ 学校力向上に関する取組状況についてのアンケート

学校名 [名寄市立東風連小学校] 記入者 [中村庄二]

## 【取組内容】

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ

要綱記載内容		該当項目に○	特に重点的に取り組んでいる事例(◎)や効果があった事例(☆)を記入
1 教育課程・指導方法等	ア 学年ごとの最低限の到達目標の設定		
	イ 発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底	○	
	ウ 各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法（詳細は「実施要綱」を参照）		
	エ 体力向上のための取組	○	◎全校マラソン、なわとび検定、年2回の体カテ実施テスト実施
	オ 特別支援学級や通常の学級における特別な教育的支援を要する児童生徒へのきめ細かな指導	○	☆名寄市専門家チームの要請・活用
	カ 学校間連携	○	小中連携（風夢プロジェクト）、幼保小連携（植樹活動）
	キ 「総合的な学習の時間」と各教科との関連の重視		
2 地域・家庭との連携	ア 学校支援地域本部の設置及び活動の促進		
	イ コミュニティー・スクール導入の積極的検討		
	ウ 地域と連携した土曜日の活用の在り方の見直し		
	エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保		
	オ 社会教育との積極的な連携・社会教育のカリキュラム化		
	カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築	○	◎閉校実行委員会・安心会議・町内会・公民館分館との連携
	キ 休日や長期休業中等の補充的学習サポートの実施と学校サポーターの積極的活用		
3 人材育成	ア 若手教員やスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組		
	イ 初任者研修、10年経験者研修等を本校で実施		
	ウ 放課後のテーマ研修への近隣実践校教員参加の積極的受入れ		
	エ 日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化の重点化	○	
	オ 通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒への指導や支援に関する校内研修プログラムを活用した研修の実施		
	カ 実践指定校の取組を普及する市町村単位の研修の実施		
4 学校マネジメント その他	ア 学校改善サイクルの実質化・迅速化	○	
	イ 外部からの継続的な指導助言及びそれを踏まえた教育課程・指導方法等の不断の見直し	○	
	ウ 必要に応じ、道立教育研究所・北海道教育大学教職大学院等との連携		
	エ 成果・課題の積極的発信		
	オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保	○	◎朝学習（東風タイム）・放課後学習の実施、余剰時間の確保
	カ 発達障がいのある児童生徒を含む全ての児童生徒が、より学習に集中できるようにするための校環境、教室環境の整備	○	☆名寄市専門家チームによる指導・助言

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ 学校力向上に関する取組状況についてのアンケート

学校名 [ 名寄中学校 ] 記入者 [ 江口貴彦 ]

【取組内容】

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ

要綱記載内容		該当項目 に○	特に重点的に取り組んでいる事例(◎) や効果があった事例(☆) を記入
1 教育課程・指導方法等	ア 学年ごとの最低限の到達目標の設定		
	イ 発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底	○	
	ウ 各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法（詳細は「実施要綱」を参照）	○	☆「目標」「まとめ」のマグネットを準備をする取組
	エ 体力向上のための取組		
	オ 特別支援学級や通常の学級における特別な教育的支援を要する児童生徒へのきめ細かな指導		
	カ 学校間連携		
	キ 「総合的な学習の時間」と各教科との関連の重視		
2 地域・家庭との連携	ア 学校支援地域本部の設置及び活動の促進		
	イ コミュニティー・スクール導入の積極的検討		
	ウ 地域と連携した土曜日の活用の在り方の見直し		
	エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保	○	
	オ 社会教育との積極的な連携・社会教育のカリキュラム化		
	カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築	○	
	キ 休日や長期休業中等の補充的学習サポートの実施と学校サポーターの積極的活用		
3 人材育成	ア 若手教員やスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組	○	
	イ 初任者研修、10年経験者研修等を本校で実施		
	ウ 放課後のテーマ研修への近隣実践校教員参加の積極的受入れ		
	エ 日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化の重点化	○	◎本事業アドバイザーによる講話への参加
	オ 通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒への指導や支援に関する校内研修プログラムを活用した研修の実施		
	カ 実践指定校の取組を普及する市町村単位の研修の実施		
4 学校マネジメント その他	ア 学校改善サイクルの実質化・迅速化	○	
	イ 外部からの継続的な指導助言及びそれを踏まえた教育課程・指導方法等の不断の見直し		
	ウ 必要に応じ、道立教育研究所・北海道教育大学教職大学院等との連携		
	エ 成果・課題の積極的発信		
	オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保	○	
	カ 発達障がいのある児童生徒を含む全ての児童生徒が、より学習に集中できるようにするための校環境、教室環境の整備		



# 教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ 学校力向上に関する取組状況についてのアンケート

学校名 [ 智恵文中学校 ] 記入者 [ 森田 繁 ]

教育改善プロジェクト委員会校内研修グループ

## 【取組内容】

要綱記載内容		該当項目 に○	特に重点的に取り組んでいる事例(◎)や効果があった事例(☆)を記入
1 教育課程・指導方法等	ア 学年ごとの最低限の到達目標の設定		
	イ 発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底	◎	・全教室に「名寄市学習規律」の掲示と月別生活目標の設定
	ウ 各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法（詳細は「実施要綱」を参照）		
	エ 体力向上のための取組		
	オ 特別支援学級や通常の学級における特別な教育的支援を要する児童生徒へのきめ細かな指導		
	カ 学校間連携	○	
	キ 「総合的な学習の時間」と各教科との関連の重視		
2 地域・家庭との連携	ア 学校支援地域本部の設置及び活動の促進		
	イ コミュニティー・スクール導入の積極的検討		
	ウ 地域と連携した土曜日の活用の在り方の見直し		
	エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保	◎	・長期休業中の学習会の工夫（時間や指導法等）。
	オ 社会教育との積極的な連携・社会教育のカリキュラム化		
	カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築	○	
	キ 休日や長期休業中等の補充的学習サポートの実施と学校サポーターの積極的活用		
3 人材育成	ア 若手教員やスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組	◎	・放課後、ミドルリーダーを中心に学習指導や生徒指導等、テーマ別の研修を行った。
	イ 初任者研修、10年経験者研修等を本校で実施		
	ウ 放課後のテーマ研修への近隣実践校教員参加の積極的受入れ		
	エ 日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化の重点化	◎	・全教員が年1回研究授業を行う（行った）。 ・ワークショップを活用した授業研究の実施。
	オ 通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒への指導や支援に関する校内研修プログラムを活用した研修の実施		
	カ 実践指定校の取組を普及する市町村単位の研修の実施		
4 学校マネジメント その他	ア 学校改善サイクルの実質化・迅速化	○	
	イ 外部からの継続的な指導助言及びそれを踏まえた教育課程・指導方法等の不断の見直し		
	ウ 必要に応じ、道立教育研究所・北海道教育大学教職大学院等との連携		
	エ 成果・課題の積極的発信		
	オ 教職員が児童生徒と向き合うための時間の確保	○	
	カ 発達障がいのある児童生徒を含む全ての児童生徒が、より学習に集中できるようにするための校環境、教室環境の整備		

平成27年度

名寄市教育改善プロジェクト委員会  
校内研修（研究）に関するグループ

【資料4】

学校力向上に関するアンケート  
補足資料（一部抜粋）

P27～28	豊西小学校
P29～33	智恵文小学校
P34～37	東風連小学校
P38	智恵文中学校

名寄市教育改善プロジェクト委員会 校内研修（研究）に関するグループ

平成27年6月22日 教務部・保健体育部

- 1 名寄市教育改善プロジェクト委員会「新体力テスト」実技研修会への参加  
名寄市教育改善プロジェクト委員会が主催した「新体力テスト」実技研修会に3名が参加した。



- (1) 開催日時 平成27年5月28日(木)  
午後3時30分～午後4時30分  
(2) 会場 名寄市立風連中学校 体育館

- 2 校内「新体力テスト」実技研修会の実施  
名寄市教育改善プロジェクト委員会の「新体力テスト」実技研修会に参加した職員を講師に、本校教職員を対象に実技研修会を実施した。

- (1) 開催日時 平成27年6月11日(木) 午後3時10分～午後3時45分  
(2) 会場 名寄市立豊西小学校 体育館  
(3) 講習内容  
ポイント

- 1 立ち幅とび  
○ 砂場ではなく体育館で行う。  
○ 具体的な目標を設定し、目印のようなものをはり、そこを目指して跳ぶように指導する。  
○ 数値を出すときには、マットをはずし、床で行う。
- 2 上体おこし  
○ ふくらはぎをもつ。  
○ 足を少し開いている時におさえる。  
○ 背中にマットをはさんでOK! けんこう骨の下にはさむ。その場合、マットをおさえる人が必要(3人1組)。
- 3 長座体前屈  
○ 肩からかべにつける。  
○ 息をはきながら手を前方にのばす。(例:「ニャー」など)  
○ 行う前に背中を伸ばす運動を行う。  
○ 靴を脱いで実施。
- 4 反復横とび  
○ できない子は1対1で指導。  
○ 重心はつねに中心に置く。  
○ 低い姿勢で。  
○ すべらない対策を行う。(モップがけ、ぞうきんで靴を濡らす。)
- 5 握力  
○ 計測器の指幅を、握りやすい位置にあわせる。
- 6 シャトルラン  
○ すべらない対策を行う。(モップがけ、ぞうきんで靴を濡らす。)  
○ 序盤にいかに体力を温存するかが大事。
- 7 ボール投げ  
○ アンダースローもOK。
- 8 50M走  
○ 5M先にコーンを置き、目標とする。



- 3 今後の予定  
7月 本校の体力テストの結果分析及び改善策の策定  
8月 名寄市教育改善プロジェクト委員会での、各校の分析結果・改善策等の取りまとめ  
9月 名寄市教育改善プロジェクト委員会の「日常の授業改善に直結した研修会」への参加

〔ほうせい1kmマラソン〕

(1) **ねらい** 休み時間を活用して、1kmマラソンを継続して実施することにより、児童が自分の体力を把握するとともに、自分のめあてに向かってねばり強く取り組む態度を育てる。

(2) **期間** 運動会後開始～10月いっぱい

(3) **方法** 朝、中、昼休みの時間を活用し、1kmマラソンコースを走り、その取組を本人が記録する。

1kmマラソンコース500m → グラフを1/2マスぬる

※授業で、河川敷のマラソンコースを走った場合も、距離に応じて色をぬる。

※放課後の活動で走ったものは、カウントしない。

※励まし 15km到達～銅賞、30km到達～銀賞、43km到達～金賞

(4) **準備**

○学校敷地内に1kmマラソンコースを設置し、運動のできる環境を整える。

○1kmマラソングラフを音楽室前廊下に掲示し、色ぬりがその場でできるよう準備する。

〔なわとび検定〕

(1) **ねらい** 自分の体と短縄を、バランスやタイミングを調整しながら動かすことを通じて、目的に合わせて巧みに運動を行う力を高めるとともに、自分のめあてに向かってねばり強く取り組む態度、そして更に伸ばそうとする意欲を持たせる。

(2) **期間** 11月6日(金)～3月11日(金)の毎週金曜日(予定)

1・2・3年生 中休み

4・5・6年生 昼休み

(3) **方法** 検定カードと短縄を持って体育委員会(体育館待機)のところで検定を行う。

(4) **級** グレード1からグレード3まで設定

ア グレード1かグレード2を決めて、そのグレードの10級から検定開始。飛び級はなし。

イ それぞれのグレードでマスターまでいったら、次のグレードにあがることのできる。

ウ 縄跳びが苦手な児童のために、別のメニューを設定する。

エ 詳細は、後日提案する。

	グレード1	グレード2	グレード3
10級	前跳び5回	あや跳び15回	後ろ2重跳び1回
9級	前跳び15回	後ろあや跳び3回	後ろ2重跳び3回
8級	後ろ跳び5回	後ろあや跳び10回	後ろ2重跳び10回
7級	後ろ跳び15回	交差跳び3回	隼(2重あや跳び)3回
6級	前かけ足跳び10回	交差跳び10回	隼10回
5級	後ろかけ足跳び10回	後ろ交差跳び3回	後ろ隼3回
4級	グーパー跳び5回	後ろ交差跳び10回	後ろ隼10回
3級	グーチョキ跳び5回	2重跳び1回	燕(2重交差跳び)3回
2級	グーチョキパー跳び5回	2重跳び3回	燕10回
1級	あや跳び5回	2重跳び5回	3重跳び3回
マスター	あや跳び10回	2重跳び10回	3重跳び5回

参考 道教育委員会主催 平成26年「どさん子元気アップチャレンジ」の種目より

<p>② 短縄跳び選手権(個人)</p> <p>【実施期間】 第1期 6/16～7/22 第3期 7/28～10/26 第4期 11/4～12/16 第5期 12/26～2/20</p>	<p>■準備等 ・短縄、ストップウォッチ</p> <p>■方法 ・「はじめ」の合図で始めます。3分間経過した時点で「終わり」の合図をします。 ・「終わり」の合図をした時点で、前回し1回跳び(1回旋1跳躍)が成功した回数を記録します。 ・失敗しても時間内は続けて行うことができ、失敗以降の回数も加算してカウントします。</p> <p>■記録 ・前回し1回跳び(1回旋1跳躍)が成功した回数を記録とします。</p> <p>■実施上の留意点 ・グラウンドや体育館など、広く安全な場所で行ってください。 ・教員(またはそれに代わる者)の立ち会いのもとに実施しますが、計測(時間、回数のカウント)は児童生徒が行っても構いません。 ・使用する縄の長さや種類は自由です。</p>	<p>□申告方法 別紙3の「記録申告用紙」を以下のアドレスに送付します。</p> <p>□申告先アドレス nawatobi@hokkaido.c.ed.jp</p> <p>□表彰等 各学年上位3名を実施期間ごとに表彰します。</p>
---	--	--

学 校 名	名寄市立智恵文小学校		校 長 名	福 田 孝 夫	教 頭 名	佐 藤 郁 彦
実 施 日	1 次 訪 問	平成 27 年 7 月 16 日 (木)	採用・異動／本校 2 年目，校長職通算 2 年目		昇任・異動／本校 1 年目，教頭職通算 6 年目	
	2 次 訪 問	平成 年 月 日 ( )				

観 点	内 容	○取組の成果，又は課題となっていること	・改善・充実に向けた今後の取組
2 組織マネジメントの改善・充実	事務職員の学校運営への参画を促進する取組や，将来のスクールリーダー等を育成する取組について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の事務職員は，教職員とのコミュニケーションを密にし，学校経営や学級経営に寄与するよう，事務運営を進めている。</li> <li>○ミドルリーダーである教務主任は，学校の教育目標を達成すべく，管理職や若手教員との連携を密に図ることによって，責任ある学校運営を推進している。</li> <li>○若手教員を分掌の重要ポストに位置付け，責任ある学校運営を経験させることによって，将来のスクールリーダーとして育成を進めている。</li> </ul>	
4 学力向上の取組	複数の教員等による習熟度別指導，ICTを活用した指導，家庭学習の充実，及び小・中連携による指導など，経営資源を最大限に活用した学力向上の取組について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器を日常的に活用しており，授業の充実が図られている。</li> <li>○春の参観日の懇談で「家庭学習の手引き」について保護者に理解してもらうとともに，テレビ視聴など生活習慣の改善を図るようお願いし，児童の学習習慣や生活習慣の確立に努めている。</li> <li>○智恵文中学校との合同運動会や参観日の相互の授業参観，乗り入れ授業等により小中連携を深め，相互理解が進んでいる。</li> <li>○複式校として少人数指導のメリットを生かした授業改善を進めている。</li> <li>○スクールバスまでの時刻（15時50分）に日常的に学習の個別指導をしている。</li> <li>○教科等や総合的な学習の時間に地域人材を活用して，地域と連携した教育の充実を図っている。</li> </ul>	
5 体力向上の取組	体育・保健体育科の授業改善や，運動環境及び運動習慣の改善など，体力向上の取組について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学期ごとに1回「体力づくり強化週間」を設定し，体力の向上が図られている。</li> <li>・1学期…新体力テストに向けた練習</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期…持久走</li> <li>・ 3学期…歩くスキー</li> </ul> <p>○全国平均値を児童に示して目標意識を高めて、全学年で新体力テストを実施している。</p> <p>○体力づくりの記録化「マッスル」の活用によって目標意識を高め向上心を育てている。</p> <p>○スポーツ少年団（野球、バドミントン）の活動によりスポーツへの関心を高めている（全児童が加入）。</p>	
6 特別支援教育の充実	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への個別の指導計画等に基づく指導を充実する取組について	<p>○特別支援コーディネーターのリーダーシップにより、組織的に特別支援教育に当たることができている。</p> <p>○名寄市特別支援教育専門家チームやパートナーティーチャーの派遣・活用によって、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童への指導や対応を明確にしている。</p>	
7 危機管理体制の確立	食物アレルギー等の対策や、自然災害・火災などの防災対策、通学路等の安全確保など、児童生徒の安全・安心を促進する取組について	<p>○食物アレルギーの研修（5月に実施済み）を校内研修に位置付け、アレルギー児童への対応やエピペンの使用方法を研修して共通理解を図ることができた。</p> <p>○交通安全指導日に下校指導やスクールバスに係る事故防止教室を行い、交通安全への意識を高めることができている。</p> <p>○近隣校の不審者情報を確実に提供している。</p>	
8 組織的な生徒指導の充実	不登校の未然防止や学校復帰に向けた組織的な取組、引きこもり児童生徒や児童虐待への対応など、組織的な生徒指導を推進する取組について	<p>○生徒指導部が中心となって、道のいじめアンケートや本校独自のいじめアンケートを実施することによって、組織的に児童理解に努め、いじめの未然防止を図ることができている。</p> <p>○定期的に事例研修を実施し、積極的な生徒指導を進め、生徒指導の3つの機能を生かすよう共通理解を図っている。</p>	

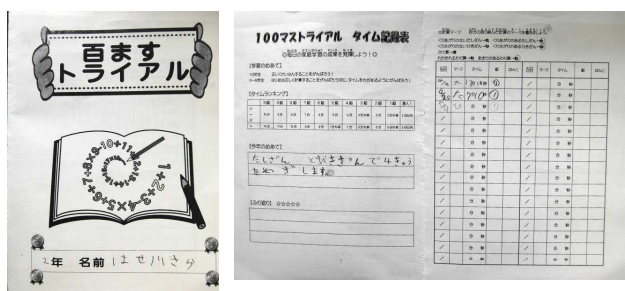
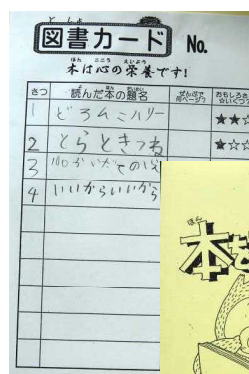
## 教育課程の工夫

- 1 授業時数の十分な確保
  - \* 低学年より6時間の日を設定（1年生…週1，2年生…週3）
  - \* 行事に要する時間の精選
    - （例）運動会の練習に要する時間は7時間
      - ・小中合同運動会なので，小中合同種目の練習については時間を確保
      - ・「小中合同総練習」の時間を設定
      - ・必要な全体練習は朝の活動時間（のびやかタイム）に行う。

## 学力向上の取組

- 1 全国学力・学習状況調査 自校採点の結果と分析～別紙資料
  - （1）全体分析 （2）児童個人への支援 （3）児童質問紙との関連

- 2 朝の学習（20分）
  - （1）読書タイム（前半10分）
    - ・個々の読書活動を記録化し，意欲を喚起する。
  - （2）100ますトライアル
    - ・学年差，学力差に応じた取組
    - ・算数の基礎学力向上を図る。



- 3 全校で取り組む日記指導
  - \* 全教職員で子どもたちへの励ましの言葉を記入したり，文章の書き方等の指導をしたりする。

- 4 放課後の個別指導
  - \* 理解に困難を生じている児童に個別指導をする。
  - \* スポーツ少年団開始（16時）までの30分間を利用して宿題に取り組ませる。（週2回）



## 5 家庭学習の手引きの活用促進

\* 保護者だけでなく児童が見て毎日の家庭学習に取り組めるようにする。

(昨年度改訂)

\* 春の参観日の全体懇談で、保護者に説明。



(児童用)

### 5・6年生の家庭学習 50分～60分以上

<大切なこと>

- ① 毎日、宿題をふくめて5年生は50分以上、6年生は60分以上学習する。
- ② 時間を決めて、集中して勉強する。
- ③ 「ながら勉強」はしない(テレビをつけない、音楽をけす。)
- ④ たれが見ても分かるように、ていねいな字で正しく書く。
- ⑤ 自分でまるつけをし、まちがいをすぐ直す。
- ⑥ 学習が終わったら、次の日の時間わりを調べ、持ち物のしゅんぴをする。

■ はじめに宿題をします。(分からないところは、お家の人や先生に教えてもらいましょう。)

■ 次に、下のような学習をしましょう。

宿題 ①日記 ②漢字練習 ③音読

- 国語**
- 学習する(した)ところを2～3回音読する。
  - 気に入った部分などを複写する。
  - 「新出漢字」について部首、読み方、熟語を調べる。
  - 言葉の意味を調べる。(国語辞典使用)
  - 漢字テストでまちがった漢字を練習する。
  - 同じ部首の漢字の仲間調べ6つ(漢字辞典使用)
- 算数**
- 学習する(した)ところを2～3回音読する。
  - 新しく学習した要点をまとめる。
  - 公式や計算方法、赤線を引いた文などを複写する。
  - 学習した問題を、もう一度確かめる。
  - 100マス計算にチャレンジする。(タイムを計る)
  - 週末には、その週の学習のまとめをする。
  - チャレンジ問題をする。
- 社会**
- 学習する(した)ところを2～3回音読する。
  - 教科書・学習ノートをもとに要点をまとめる。
  - 図や表などから、分かったことや考えたことをまとめる。
  - 日本地図を見て場所を確認しながら、都道府県(県庁所在地)を調べて書く。

## 6 漢字能力検定に全校で参加(2月)

## 7 授業改善を中心とした校内研修体制の確立

\* 国語科を窓口とした研究(1年次目)

## 8 学習規律の徹底





## 体力向上の取組

### 1 全校縄跳びチャレンジへの取組

\*日常的に縄跳びの練習に取り組み、毎週木曜日に各級別の検定に取り組んでいる。

### 2 体力づくり強化週間

\*各学期に1回ずつ設定

- 1学期…長縄跳び，新体力テストに向けた練習
- 2学期…持久走
- 3学期…歩くスキー

### 3 体力づくりの記録化「マッスル」の活用

\*全児童が体力づくりや体育的行事の記録化を行い，目標意識を高めたり，向上心を育んだりする。



運動会 平成 年 月 日 ( )
運動会のテーマ
目標
反省

### 4 スポーツ少年団の活動

- \*昨年度設立。全員が所属。教職員が指導。
- \*スポーツへの関心を高め，個に応じた体力の向上を図る。
- \*野球とバドミントン。中学校との連携を図るため，バドミントンを中心に取り組んでいる。

※別紙経営計画より抜粋した資料参照



# とうふう 東風小 特色ある十二の教育活動

## 1. 確かな学力の定着と学び方の習得

- ①「へき地」「少人数」の利点を生かした、個に応じたきめ細やかな学習指導
- ②児童の「主体的な学び」を育む学習過程の構築
- ③東風タイム(8:15~8:30)での基礎的・基本的な知識や技能の習得



## 2. 地域素材・人材を活用した学習活動の展開

- ④米づくり・野菜づくり体験活動の推進
- ⑤ふれあいと感謝の心があふれる「収穫祭」「もちつき集会」の開催
- ⑥森林のはたらきの理解を深める「森林教室」「植樹活動」の実施



## 3. 体力づくり

- ⑦全校マラソン(春季・秋季、憲法ロードレースへの参加)
- ⑧なわとび検定(毎月末、どさんこ元気アップチャレンジへの参加)



## 4. 全校児童のふれあい

- ⑨全校遊び、全校給食、たてわり班での清掃活動の展開
- ⑩さわやかなあいさつが響きあう集団下校



## 5. 喜びと感動あふれる各種行事の創造

- ⑪地域と共に創る「ふるさと運動会」(閉校記念運動会)
- ⑫豊かな想像力と表現力をはぐくむ「学芸会」(閉校記念学芸会)



# 平成27年度 東風連小学校 学校改善プラン①

## 1 実施期間

平成 27 年 5 月 1 日～平成 26 年 9 月 31 日

## 2 児童の実態

6 年児童 2 人は、学習意欲・能力共に優れており、日常の学習指導や家庭学習の継続等により、基礎学力の定着が図られてきている。しかし、授業において互いに自分の考えを交流する場面では、練り合い深め合うまでには至っていない。それぞれの個のよさを生かし、豊かな発想や多様な考え方を生み出す支援が必要である。

### (1) 学習に関する全体的な傾向

#### 【学習意欲】

教師の指示や説明をもとに、学習課題に意欲的に取り組む。また、課題を解決するために粘り強くやりぬく態度も育っている。しかし、仲間と切磋琢磨し互いに高め合ったりする態度は十分ではない。

#### 【基礎学力】

基礎学力の定着については、十分に身に付いている。

#### 【発表力】

グループや小集団で交流することには慣れているが、大きな集団で自分の考えを発表することについては経験が乏しい。

#### 【課題解決力】

2 人とも与えられた課題については、解決に向けてよく努力する。様々な観点から課題を見つめたり、自分で課題を見つけ解決したりするまでには至っていない。

#### 【家庭学習】

家庭学習の習慣が定着している。今後も内容面の充実に向け、個々に支援していく必要がある。

#### 【読書】

読書の習慣も身に付いている。(普段の読書 1～2 時間 1 人、2 時間以上 1 人) 今後は、読む本の種類など、読書の内容について支援していく必要がある。

### (2) 全国学力・学習状況調査からの傾向

#### 【国語】

##### ① 国語 A (主として「知識」に関する問題)

2 人とも基礎的な知識が十分に身に付いている。

##### ② 国語 B (主として「活用」に関する問題)

活用の問題についても、設問に対してほぼ適切に解答することができる。

#### 【算数】

##### ① 算数 A (主として「知識」に関する問題)

算数についても、基礎的な知識は十分に身に付いている。

##### ② 算数 B (主として「活用」に関する問題)

応用力も身に付いているが、必要な条件や根拠を基に順序立てて説明することに課題がある。

#### 【理科】

① 知識・理解については十分に定着しているが、複数の事象を関連付けて考えたり説明したりすることや、観察・実験の技能の確実な定着には課題がある。

② エネルギーの内容について活用する設問に課題がみられた。

## 3 目標

- (1) 今後も基礎的・基本的な知識や技能，学び方の確実な定着に向け，一層の指導の充実を図る。
- (2) 体験的な学習を充実させ，課題解決に必要な，思考力・判断力・表現力伸長を図る。
- (3) 学習意欲の向上や学習習慣の確立を図り，児童全員が学校の設定時間以上の家庭学習を行う。

#### 4 改善方策

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得
  - ①指導方法の工夫（教材研究・授業準備時間の確保／学年別学習指導の充実）
  - ②朝の「東風タイム」を活用しての学習指導
  - ③読書指導の充実
- (2) 思考力・判断力・表現力の育成
  - ①複式学級の学習過程の定着による「追求場面（自力解決）」時間の充実
  - ②人との関わりを重視し，自分を高める授業の展開（研究主題との関連）
  - ③言葉によるコミュニケーション力獲得をめざした指導
- (3) 学習意欲の向上
  - ① [目標の設定] → [達成への努力] → [達成した喜び] → [次の目標の設定]  
このサイクルを何度も経験させることによる「たくましい心」の涵養
  - ②地域の素材・人材を活用した体験活動の展開
- (4) 生活習慣・学習習慣の形成
  - ①家庭学習の内容充実と保護者との連携強化
  - ②生活リズム(早寝・早起き・朝ごはん) の定着を図る工夫(生活リズムチェックシート活用等)
- (5) 各種検査の結果の分析
  - ①全国学力・学習状況調査，標準学力検査，チャレンジテストの計画的実施・活用
  - ②結果の分析と課題解決のための指導内容の重点化

#### 5 実施計画

月 日	計 画 内 容	担 当
平成 27 年 4 月上旬	○学校改善プランの修正	プラン委員会
4 月下旬	○基礎・基本の確実な定着を図る指導 ・東風タイムの効果的活用	学級担任
	○全国学力・学習状況調査自校採点	学級担任
5 月上旬	○児童の実態把握・全校学力テスト（4/21 実施） 分析 ・全国学力・学習状況調査による実態把握 ・全国学力・学習状況調査問題分析	学力委員会
6 月上旬	○課題となった学習内容・領域の重点的な指導・重点単元の設定	指導委員会 学級担任
7 月中旬	○生活リズム定着についての指導 ・生活リズムシートの活用 ・家庭学習習慣の定着を図る宿題の工夫	指導委員会 学級担任
8 月下旬	○トライやるウィークの結果を踏まえた第 3 期の検証	指導委員会 学級担任

9月中旬	○学校改善プランの修正 ・H27年度学力・学習状況調査結果の公表結果を踏まえ、27年度後期プランの作成	指導委員会 学級担任
------	--	---------------

## 6 評価方法

評価項目	指標	評価指標	評価
(1)基礎・基本の確実な定着を図る指導	取	・単元や一単位時間に学習を振り返る場を設定し、子ども自身が分かったと確認する指導の工夫を図っている。	
	行	・朝学習、家庭学習、授業等で重点指導事項を設定し、反復学習などの繰り返し学習に取り組み、基礎・基本を確実に定着している。	
(2)個に応じたきめ細かな指導の推進	取	・子ども一人ひとりの理解の程度を把握し、個々への適切な支援を行っている。	
	行	・目標達成のための努力を促し、個々への指導を充実することにより、一人一人が充実感や達成感を味わうことができる。	
(3)家庭学習や宿題の工夫	取	・宿題や予習・復習など、家庭学習の習慣化のための手立てを工夫している。	
	行	・自分から進んで家庭学習に取り組むようになってきている。	
(4)生活リズムの定着	取	・生活シートの積極的な活用に努めている。	
	行	・早寝・早起き・朝ご飯について、生活リズムの大切さと関連づけて自主的に取り組むようになってきている。	
(5)指導力向上	取	・子どもにつけたい力を明確にした授業研究に取り組んでいる。	
(6)組織体制	取	・全国学力・学習状況調査結果や日常の学習状況を基に実態の分析をしている。	
	取	・分析を生かして、目標・方策・実施計画を改善し、学校改善プランの改訂を行っている。	
	取	・家庭学習や生活リズムの定着など家庭との連携を図って取り組んでいる。	
	取	・全教職員が参加する体制づくりを進めている。	

## 7 組織体制

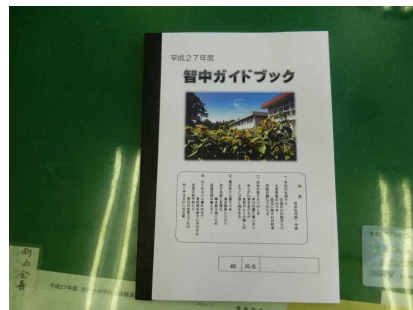
委員会	業務内容	構成
プラン委員会	○学校改善プランの策定・改善	校長，○教務，研修
学力委員会	○全国学力・学習状況調査の分析・検討	教頭，○教務，研修
指導委員会	○授業改善 ○家庭学習の充実	教頭，教務，○研修

## 改善プロジェクト校内研修グループ 学校力向上に関する取組状況

名寄市立智恵文中学校

### ③学習規律の指導の徹底（名寄市学習規律10項目）

- ・学級担任及び教科担任における生徒指導を充実させ、落ち着いた雰囲気での学習に取り組めるよう学習規律・授業ルールの徹底を図った。
- ・また、今年度「智中ガイドブック」を作成し、「授業の受け方」「発表の仕方」等々、「智中版学習規律」を設定し、徹底を図った。



#### 【成果】

ガイドブックを作成することによって学校の決まりはもちろんのこと学校生活全般において見通しを持った生活を送れるようになった

### ◎長期休業中の学習会の工夫

- ・個別指導やコース別指導など、生徒の実態や興味・関心に応じた指導方法や指導体制を工夫した。
- ・事前に教育相談やアンケートを実施して生徒の願いや思いを把握し、指導にあたった。
- ・長期休業後に、確認テストを行うなど取組の成果が実感できるように工夫した

#### 【成果】

学習会を通して、学習意欲が高められ、継続して家庭学習に取り組むなど、学習習慣の確立が図られつつある。



### ◎ワークショップを活用した授業研究の実施。

- ・特別支援生徒の支援について、話し合いの技法を用い問題解決を図った。
- ・全体を2つのグループに分け、各グループで特別支援生徒の課題状況を解決するための手立てについて、話し合い、各グループから発表を行った



#### 【成果】

ワークショップ型の研修を行うことによって、同僚性が構築され、一人一人が参加したという充実感が持てた。

# 【資料5】 名寄市改善プロジェクト委員会 校内研修(研究)の充実に関する研究グループ

## 学校力向上に関する総合実践事業 実践指定校視察概要

- 1 目的 学校運営の中核となる教員を，他管の学校力向上に関する総合実践事業の実践指定校へ派遣し，その先進的な取組等について研修することにより，スクールリーダーとしての見識や職務遂行の意欲を高め，視察の成果を自校に還元・普及させることを目的とする。
- 2 訪問日時 平成27年9月25日（金） 13：00～15：30
- 3 場所 留萌市立留萌小学校 6年1組，多目的教室2
- 4 来訪者 名寄市教育改善プロジェクト委員会  
(名寄市小中学校教職員 13名)
- 5 内容 ○教室見学，授業参観  
○留萌小学校の授業改善の取組，及び学校力向上に関する総合実践事業の取組に関する説明  
○質疑応答
- 6 日程

時間	内容
13：00	■日程の説明等
13：05	■留萌小学校の授業改善の取組概要の説明 <学力向上G 山本教諭>
13：40	■【授業参観】 ○第6学年1組 算数「教えて考えさせる授業」の実践 単元名 「比例と反比例」 授業者 小柳 忍 教諭（T1） 秋葉三世 教諭（T2）
～14：25	
14：30	■授業改善の取組，授業実践について【質疑・協議】 ・取組概要説明並びに授業実践内容に関する質疑・協議
14：50	■留萌小学校における「学校力向上に関する総合実践事業」について 【説明・質疑・協議】 <教頭>
～15：30	・1年次（26年度）の実践経過及び2年次（27年度）の取組の概要について





## 7 視察を終えて

- (1) 平成27年度に沖見小と統合、新校舎へのに移転等、めまぐるしい環境の変化の中で、指定されて2年目での説明をいただきました。中村校長、山口教頭を中心に校内体制をしっかりと確立し、学校力向上に向けて1つのチームとして取り組んでおられました。  
 <参考>近隣実践校 市内4校、港南中学校 (小中連携は本年度より、スタートする)  
 特別連携校 管内町村の各主要学校8校
- (2) 各学年が2クラス編成と言うことでベテランと若手という学年の組み合わせが成り立つため、理想的な体制だと感じました。また、外の光をいっぱいに取り込める新校舎で、子ども達は明るい雰囲気の中で、生き生きと活動していました。
- (3) 研修を軸に、近隣指定校との連携がしっかりとされていることが分かりました。
- (4) 「学校力向上に関する総合実践事業」の指定校実践を、それぞれの学校がどう受け取り、自校のものとして実践できるかが重要だと教えていただきました。





# 【資料6】

名寄市改善プロジェクト委員会  
校内研修(研究)の充実に関する研究グループ

## 学校力向上に関する総合実践事業 実践指定校等視察報告会

- 1 目的 学校運営の中核となる教員を、他管の学校力向上に関する総合実践事業の実践指定校へ派遣し、その先進的な取組等について研修することにより、スクールリーダーとしての見識や職務遂行の意欲を高め、視察の成果を本校はもとより、名寄市内の小中学校の教職員に広く還元・普及させ各学校の学校力の向上を図ることを目的とする。
- 2 開催日時 平成27年12月22日(木) 15:30~16:30
- 3 場所 名寄市役所 会議室
- 4 参加者数 40名
- 5 発表者 (1) 留萌市立留萌小学校 (名寄東中学校 堀田 大次郎 教諭)  
(2) 北広島市立大曲小学校 (名寄小学校 奈良 小百合 教諭)  
(3) 網走市立網走小学校 (名寄小学校 中村 文 玲 教諭)  
(4) 秋田県大館市立北陽中学校 (名寄中学校 田中 充 教諭)
- 6 発表内容 (1) 留萌市立留萌小学校 (名寄東中学校 堀田 大次郎 教諭)



### 留萌小学校の取組

- ① 管理職のリーダーシップ
- ② 学校が1つのチームとなる
- ③ 4領域26項目の先進事例を参考に包括的な取組
- ④ スクールリーダーを継続的に輩出する仕組みの構築

### 留萌小学校の実践 1

#### ①管理職のリーダーシップ

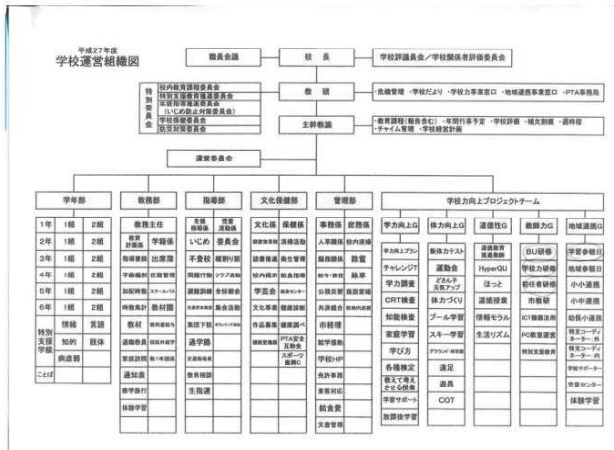
校内体制の確立  
校務分掌組織と学校力向上チームの2本立て

**校務分掌組織**

- 教務部 ○指導部
- 文化保健部 ○管理部

**学校力向上プロジェクトチーム**

- 学力向上G ○体力向上G
- 道徳性向上G ○教師力向上G
- 地域連携G



## 留萌小学校の実践 2

- ②学校が1つのチームとなる
- 個々の役割と責任を明確にする。
  - 年度当初に各担当ごとに取り組む内容の計画書を作成する・・・Can・Doシート
  - 定期的にグループで打ち合わせを行い進捗状況を確認する
  - プロジェクトリーダー会議の開催
  - 各グループの取組内容を通信等で周知

## 授業公開から

### 「教えて考えさせる授業」の実践

今回の授業公開で実践されたのは、東京大学大学院教育学研究科 市川 伸一教授が提唱する授業展開。

- ・「比例と反比例(第6学年)」をITで実践
- ・説明17分、理解確認8分、理解深化17分、自己評価3分

- 効果的な指導方法とは何か
- 小学校の指導と、中学校の指導の違い
- 全校で取り組むことの難しさ

## 留萌小学校の視察から

留萌小学校の中村校長、山口教頭を中心に校内体制がしっかりと確立されており、学校力向上に向けて1つのチームとして取り組んでいました。



## 留萌小学校の実践 3

- ③4領域26項目
- (1) 教育課程・指導方法など 7項目  
例 ウ 各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法  
「教えて考えさせる指導」  
説明→理解確認→理解深化→自己評価
  - (2) 地域・家庭との連携 7項目
  - (3) 人材育成 6項目
  - (4) 学校マネジメント 6項目

## 留萌小学校の実践 4

- ④スクールリーダーの育成
- BU(ブラッシュアップ)研修
    - ・教員個々の力量を磨いていくための研修
    - ・短い時間で効率よく(20分程度)
    - ・いろいろな先生が講師(得意分野を生かす)
  - 放課後テーマ別研修
    - ・連携校の実践を交流し合う(全8回)
    - ・教育局とも連携。道内アドバイザー

## 留萌小学校の視察から

外の光をいっぱいに取り込める新校舎で、明るい雰囲気の中、児童は生き生きと活動していました。



## 留萌小学校の視察から

研修を軸に、近隣指定校との連携がしっかりとされている印象でした。



## 最後に

「学校力向上に関する総合実践事業」には、

- 1-カ 学校間連携
- 3-7 若手教員やスクールリーダーの計画的な育成
- 3-E テーマ別研修への近隣実践校教員の積極的受入れ
- 3-カ 実践指定校の取組を普及する市町村単位の研修
- 4-E 成果・課題の積極的発信

などが含まれています。

名寄小学校や留萌小学校から発信される素晴らしい実践の数々を、近隣実践校がいかに取り受け取り、自校のものにして実践することができるかが重要です。

(2) 北広島市立大曲小学校 (名寄小学校 奈良 小百合 教諭)



大曲スタンダード



- 近隣の小学校や、中学校と連携し、目指す姿を共有しています。
- 立ち止まってあいさつをする。
  - 相手を見て、元気よく返事ができる。
  - 「正しい姿勢」で、授業を受けることができる。
  - 時と場に応じた「言葉づかい」ができる。

ぜったい検定&やりたい検定



各種検定用のプリント置き場。学年に分かれており、整理整頓されています。

日常授業の充実

全員参加



- 読む
- ①一斉起立音読
  - ②タケノコ読み
  - ③ペア音読
  - ④追い読み
  - ⑤巻き込み読み
  - ⑥ダウト読み
  - ⑦指名なし音読



(3) 網走市立網走小学校 (名寄小学校 中村 文玲 教諭)



学習環境

学習用語の掲示



年間1000時間の日常授業を大切に

- \* 子どもたちの学力の向上→「日常授業」の改善
- \* 研究授業は「すごい授業」「活発な授業」「派手な演出のある授業」になりがち。
- \* 授業を大切にするための指導案検討

活動量を確保する授業

- \* ①No Line  
(順番待ちの長い列をつくって並ばない)
- \* ②No Lecture  
(長々と説明しない, まずはやってみよう)
- \* ③No Laps  
(可能な限り素走りをへらし主運動を関連させる)

(4) 秋田県大館市立北陽中学校 (名寄中学校 田中 充 教諭)



### 研修・授業実践について

- ①授業構成の工夫

**【導入】**

課題解決に主体的に取り組み、自分の考えを持つことができる

(イ) 課題解決の見通しを持たせる工夫

→単位時間の流れがわかる板書(50分ものさし)

### 研修・授業実践について



### 研修・授業実践について

- ①授業構成の工夫

**【展開】**

他者との関わりで考えを広げたり深めたりすることができる

(ウ) 意見交流での効果的なコーディネート  
(話形・話の聞き方・意見のつなげ方 等)

→ 小学校からの連携“ハンドサイン”

2年生からは形にはまらない方法で、生徒自身のコーディネート力を身につける

### 研修・授業実践について



### 研修・授業実践について

◇研究と検証の方法

- (4) 諸検査の活用と情報の共有化

- ①諸検査結果の分析をできるだけ早く行い、授業づくりや指導に生かす。
- ②授業力向上及び生徒理解に関する校内研修を充実させるとともに、校外研修で学んだ内容の共有化。
- ③教師・生徒による評価アンケートを実施し、授業づくりや指導に生かす。
- ④研修だよりを発行し、研究の共有化・共同化を図る。

# 【資料7】 「新体力テスト」実技研修会

校内研修（研究）の充実に関する研究グループでは、新体力テストの効果的な実施方法や子どもの意欲を高める工夫に関して、名寄市内の各小中学校の新体力テスト実施担当教職員を対象に、実技研修を開催しました。

- 1 開催日時 平成27年5月28日（木）午後3時30分～午後4時30分
- 2 会場 名寄市立風連中学校 体育館
- 3 対象 名寄市内各小中学校の新体力テスト実施担当教職員
- 4 内容 (1) 今年度の新体力テスト実施前に取り組んでおくこと  
(2) 新体力テストの実施に当たってのポイント
- 5 研修の概要（参加者16名）
  - (1) 実施前に取り組んでおくこと  
講師の名寄中学校の須藤教諭から、実施前に取り組んでおくことよい点を、具体的に紹介いただき、理解を深めました。
  - (2) 「新体力テスト」実施に当たってのポイントについて  
「新体力テスト」の各種目毎の具体的なポイントについて、参加者を交えた実技研修を通して、説明いただきました。

## 1 立ち幅とび

- 砂場ではなく体育館で行う。
- 具体的な目標を設定し、テープ等で目印をはり、そこを目指して跳ぶように指導する
- 数値を出さずときには、マットをはずし、床で行う。



## 2 上体おこし

- ふくらはぎをもつ。
- 足を少し開いている時におさえる。
- 背中にマットをはさんで OK ! けんこう骨の下にはさむ。その場合、マットをおさえる人が必要（3人1組）。



## 3 長座体前屈

- 肩からかべにつける。
- 息をはきながら手を前方にのばす。（例：「ニャー」など）
- 行う前に背中を伸ばす運動を行う。
- 靴を脱いで実施。



## 4 反復横とび

- できない子は1対1で指導。
- 重心はつねに中心に置く。
- 低い姿勢で。
- すべらない対策を行う。（モップがけ、ぞうきんで靴を濡らす。）



## 5 握力

- 計測器の指幅を、握りやすい位置にあわせる。



## 6 シャトルラン

- すべらない対策を行う。（モップがけ、ぞうきんで靴を濡らす。）
- 序盤にいかに体力を温存するかが大事。



## 7 ボール投げ

- アンダースローもOK。



## 8 50M走

- ゴールの5M先にコーンを置き、目標とする。



## 【資料 8】

名寄市改善プロジェクト委員会  
校内研修(研究)の充実に関する研究グループ

### 体育指導の授業実技研修会

校内研修（研究）の充実に関する研究グループでは、平成26年度に名寄市内の各小中学校の体力向上の取組をまとめて交流するなど、市内の児童・生徒の体力向上策を模索してきました。

今年度は、市内児童・生徒の体力面における実態と課題の解決、小学校教員を中心とした体育指導上の困り感の解消を目的とした実技研修、日常の体育の授業改善に直結した研修会を実施してきました。

- 1 開催日時 平成27年11月11日（水）午後3時30分～午後4時30分
- 2 会場 名寄市立名寄小学校 体育館
- 3 対象 名寄市内の小学校の教職員
- 4 内容 (1) ラダー及びミニハードルを使用した体づくり運動  
(2) 器械運動学習支援プログラム「たくみ君」を活用したマット運動の授業づくり
- 5 研修の概要（参加者38名）

#### (1) ラダー及びミニハードルを使用した体づくり運動

講師の名寄東中学校の辻 典男教諭から、ラダー及びミニハードルを使用した体づくり運動について実技研修を交えて説明いただきました。

最初にダイナミックストレッチとして、つま先タッチや肘付けを全員で体験しました。ラダーを使ったトレーニングでは、初級編であるストレートジャンプからスタートし、中級編のトレーニングまで全員で体験し、ラダートレーニングの効果的な指導法と指導のポイントを学びました。

最後のミニハードルを使ったトレーニングでは、1ステップで走り抜けるスプリントから始まり、両足ジャンプなどいくつかのバリエーションを体験しました。

今回体験した内容は、体育授業の導入段階などですぐに活用できる運動であり、授業に取り入れることで、より効果的な体づくりを図ることができると思いました。





## (2) 器械運動学習支援プログラム「たくみ君」 を活用したマット運動の授業づくり

講師の名寄中学校の須藤雅典教諭から、名寄中学校での実践を基に、マット運動の系統的な指導法、マット運動学習カードを活用した授業づくりについて、説明いただきました。

次に、器械運動学習支援プログラム「たくみ君」を実演や、「たくみ君」を活用した授業では、生徒が自分でマット運動の技の練習方法や練習のポイントを確認しながら練習に取り組んでいる等の説明がありました。

